

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2020

4

第49号

必ずいつか虹がでる



「春はSL人吉に乗って」球磨村渡駅付近で © 松本学

火の国、水の国、
焼酎の国。

球磨焼酎

球磨焼酎



（前）内田三ツ葉商店
宇梶剛士



世界的な品評会で
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles
Wine & Spirits
Competition 2019



飲酒は20歳未満までから、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼすおそれがあります。

球磨
球磨酒造株式会社
<http://www.sengetsu.co.jp/>
〒968-0052 熊本県人吉市新町1番地

雑誌 81779-04-0



4910817790406
00500

月刊 くまがわ春秋 第49号 2020年4月9日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759
<http://www.hitooyoshi.co.jp/> info@hitooyoshi.co.jp

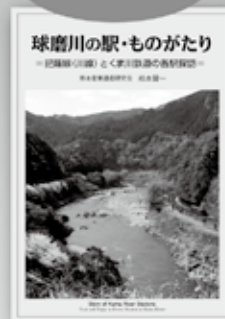
定価 550円 本体 500円

球磨川の駅・ものがたり

＝肥薩線(川線)とくま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一

絶賛発売中



「くまがわ春秋」に
連載された
31駅が二冊に

懐かしい
球磨川の駅を
たどる

■A5判 212頁オールカラー
■定価 1,650円(税込)

ご購入は人吉・球磨の書店、
TSUTAYA 八代松江店、道の駅さかもと、
くま川鉄道「くまたび」、発行元の人吉中央出版社、著者宛にどうぞ。



注文・発行元：人吉中央出版社 〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
☎0966-23-3759 / FAX0966-23-3759 <http://www.hitoyoshi.co.jp> info@hitoyoshi.co.jp

著者連絡・注文先：熊本県人吉市九日町115 松本歯科医院(〒868-0004) Fax 0966-25-1360

4月号(第49号) 目次

春は「SL人吉」に乗って…3

板井優弁護士を偲ぶ②

- ・追悼 板井優弁護士 土肥勲嗣…13
- ・正義をつらぬくには 森 明香…14
- ・板井優弁護士の思い出 東 慶治郎…16
- ・柳人があじわう漱石俳句 ④⑨ いわさき楊子…19
- ・くまがわの神さん仏さん ④④ 宮原信晃…20
- ・一枚の古写真から ① 益田啓三…22
- ・建築みてある記 ④④ 森山 学…24
- ・おととわつとあすび ③⑨ 松舟博満…29
- ・「あがつ段」 ④⑥ 上杉芳野…30
- ・「アマビエ様」…32

澤宮優の本を読む①

『バッティングピッチャー』…4

必ずいつか虹がでる

- ・新型コロナウイルス感染症 岐部明廣…8
- ・風邪を引いたらお脈拝見 大草知子…11

追悼・三原竹二さん

- ・人吉労音とともに 淵上公典…33
- ・文化運動の理論的リーダー 上田精一…34
- ・婚姻論③「よばい(2)」 上村雄一…40
- ・住みたい田舎ランキング④ 岐部明廣…44
- ・鶴鶴短歌会 三月詠草…47
- ・坂本の製紙工場小史補論 上村雄一…48
- ・記憶の落ち穂 ④⑧ 坂本福治…51
- ・お休みどころ通信 ⑭ 興野康也…52
- ・倉敷便り ③⑨ 原田正史…54
- ・漢和字典は面白い ③② 鶴上寛治…57
- ・小説・相良清兵衛 ②⑧ 山口啓二…58
- ・字図で見る球磨の地名 ③⑦ 上村重次…64
- ・愚感随想 ① 富永和信…67
- ・方言を味わう ④④「しゃぐのきッ」 前田一洋…70
- ・くまがわ学習塾 ③④…73
- ・ひろしの…げっかん…ぎひよう…74
- ・外来語から学ぶ英単語 ④⑨ 藤原 宏…74
- ・「季語で一句」 ⑤ 永田満徳…75
- ・前号「くまがわ学習塾③の答え」…77
- ・いもご短歌会…79
- ・今月の一言「文読む月日」…79
- ・表紙写真説明…79

本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木サンロード駅店) ■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

春は「SL人吉」に乗って



球磨村渡でシャッターを切る鉄道ファン



人吉駅での1番列車のお出迎え（3月14日）



桜の下を通る上り列車（つる祥子さん撮影）

今シーズンの運行開始 週末や連休を中心に139日間往復

肥薩線を走るJR九州の観光列車「SL人吉」が3月14日、今季の運行を開始し、沿線やJR人吉駅で黒煙を吐く雄姿が新型コロナウイルスによる自粛ムー

ドを吹き飛ばした。11月23日までの週末や連休を中心に、139日間の運行を計画している。人吉駅では、人吉温泉女将の会のメンバーらが法被姿で手振り

旗などを掲げて盛大に歓迎。さくら会の有村政代会長（69）は「暗いムードの中にSL人吉が来てくれたおかげで、希望が持てる」と話していた。インターネット上では肥薩線沿線の各地から、走るSL人吉の写真が投稿され、歓迎ムード一色となった。

巻頭言

コロナ過断章

新型コロナウイルスは人類全体が立ち向かわざるをえない危機、すなわち世界的感染状況（パンデミック）になっている。一国で封じ込めることができて「外部からのウイルス輸入・侵入」で感染が再度広がり拡大する危険もある。モノ・ヒト・カネの国際化はウイルスの国際化でもある。治療薬が開発されて沈静化の時期がみえてくるまで不安はつく。報道によれば新薬開発まで最速で2年近くの時間を要するというのが、あくまでも予想にすぎない。そして2年は長い。

コロナウイルスの発生は予想されていなかったわけではない。ウイルス研究の世界的権威機関である米ジョンズ・ホプキンス大学は、世界各地に、ウイルス発生の子兆がみられるとする報告書を2年前に発表して注目されていた。残念ながら、同大学の警鐘は生かされることがなかった。基礎研究でなく直ぐに商品化できる実用科学に人材と費用は投入されつづけた。それは世界的傾向であつた。そうした精神的土壌のもとでトランプ大統領は登場した。日本では、国立感染症研究所（「感染研」）の予算・研究者の削減に向かう傾向がこれまでに以上に進んだ。その傾向に対する批判は根強くあつたが、結果的に無視された。ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥教授のIPS研究の予算削減の動きも強まっている。短期的にみれば、基礎研究は投下費用を満足する成果を直ぐには生まない。限られた費用から基礎研究に多額の費用を回すのは生産的でないようにみえる。だが、長期的にみればどうか。治療薬が開発されるまで「がまん」するしかない。痛みをともなう「がまん」になる。短気は損気というけれども、長期戦はそれほど容易でない。不安・不満が蓄積して暴発することもあるかもしれない。熊本地震では「絆」が強調されたが、今回は、どうという言葉がつかみだされるだろうか。イギリスでは医療従事者に対する感謝の「拍手」がすでに生まれているが、日本ではそうした動きは、いまのところはじまっていない。

（春秋）

澤宮優の本を読む ①

『バッティングピッチャー』（集英社文庫 2020年3月25日）

澤宮優（さわみや・ゆう）。1964年、八代郡鏡町（現八代市鏡町）で生まれる。文政小学校、鏡中学校、県立宇土高校を経て、青山学院大学に進学。卒業後、私立大学の事務職員になり、その仕事を続けつつ執筆に専念し、2001年に独立。彼の作品をすべて読んでいくわけではないが、日なたの影のもとにいて注目されることの少ない人々に、目を向けつづけているところに彼の魅力がある。

有名人だけが社会で生きているわけではない。圧倒的多数の無名の人がいてはじめて社会は社会として成立し、無名の人の働きによって社会は機能し文化をつくりだしている。考えてみれば、それはあまりにも自明の理で改めて語るほどのことではないが、自明の理を自覚し

つづけることは無駄ではない。そこで、彼の作品を紹介していこうと思う。地元出身であるから彼の作品を紹介するのはではない。彼の作品を通じて、人間生活の実存を確認したいのである。

職業としての野球

野球にかぎらずスポーツを職業にすることは何を意味するのか。「職業としての野球」と「プロ野球」は、マックス・ウェバーの用語法にしたがうとき、必ずしも同一ではないが、ここでは同一とし、プロ野球の世界を眺めるとき、その世界が幅広く複雑であることに容易に気づく。プロ野球は、なによりも観客を前提にする。巨大資本家の出資によって、監督・コーチ・選手を集め、試合を実施

するのは不可能ではない。そのときには野球は私的世界の産物にとどまる。そこに観客がいても事情は変わらない。選手たちは資本家の使用人として資本家を楽しませることがその職業ということになる、観客は、秀吉の茶会参列者のように資本家の欲望を満足させる客で、その客を通して公的世界につながるが、本質的にはその野球は私的世界の存在である。

試合を商売と考えるものが登場し、身銭を切つて球場に向かう者がでてきて、ようやく野球は「公的世界」に足を踏み入れる。そこから「観客論」が発生する。「観

客論」抜きの「プロ野球論」はありえない。観客論は劇場論と連関する。

「プロ野球の選手」になりたいとの夢をいだく子どもたちは多い。宝塚を夢見る少女も少なくない。彼らは、観客の視点から野球選手を眺め、舞台女優にあこがれる。無論、すべての子どもたちがその夢を叶えることはない。夢をいだくだけで終わる例がほとんどである。マウンドに立つ投手、舞台上に登れる女優はさまざまなプロセスを経て選ばれたエリートである。鍛錬・自律・心のもとで選び抜かれた者たちである。

本書は、エリートである打撃選手のバッティング力を維持し調整し向上させるためにボールを投げつづける作業を「職業」にする投手（バッティングピッチャー）に焦点をあてた作品である。打撃練習専門の投手で、一般には、「打撃投手」とよばれる。彼らは、長嶋・王・松井・落合・イチローなどのスター選手の背後に隠れ、陽の当たるところには登場しない。いわば、スターの片腕である。しかし、彼らも「選ばれた者」である。草野球の投手は「打撃投手」にならない。マウンドに立つ投手より力量が落



澤宮優著『バッティングピッチャー』
（集英社文庫 2020年3月25日）

ちる者が「打撃投手」として適格とはかぎらない。

本書は、「打撃投手」が独立した「職業」であることを証明したルポルタージュである。観客はさほど注目しないが、簡単にはなれない「職業」に光をあてた作品である。澤宮は、17年前に本書の親本ともいべき作品『打撃投手』（2003年8月1日 現代書館）を上梓している。両者は重複するところが多いが、同一ではない。後者が読みやすいが、持ち歩くには前者がいい。本来なら、両者を併せて紹介すべきだが、ここでは、後者には一切触れない。文庫本の『バッティングピッチャー』のみに依拠する。澤宮は本書のサブタイトルとして「背番号三桁のエースたち」を選択した。バッティングピッチャーの大半は「104」のように三桁の背番号であることによる。

職業としてのバッティングピッチャー

「バッティングピッチャー」は和製英語である。初出は不明である。「打撃投手」は昭和12年にさかのぼる。同年、巨人軍の沢村栄治の速球を打ち崩すために、大阪タ

ケーション行為の能力に職業としての「バッティングピッチャー」の本質があると考えることによる。コミュニケーション行為論は野球の世界に限定されない。それは仕事（労働）の本質であると作者は考えている。

コミュニケーション行為は心的作用である。心理はプラスの方向だけでなくマイナスに作用する。制球力を突然に喪失する病理「イップス」発生の要因ともなり、失敗体験の蓄積は選手の精神をむしろ、運動能力も奪うことになる。澤宮は、これを重視し、「イップス」の事例研究も試みているが、これについては別の機会に改めて触れる。

「空白の1日」

本書冒頭に、澤宮は北野昭仁を置いた。「松井秀喜の恋人」として有名な打撃投手で、打撃投手とはなにもを示す人物として北野をふさわしいとみたのであろう。松井秀喜というビックネーム、そして「恋人」という形容も作者は計算したのかもしれない。人間の記憶は不思議で、本書を読み北野が昭和53年にドラフト外で巨人に

イガース（現阪神タイガース）が、打撃投手をプレートより1メートル前に出して練習をおこなっている。澤宮はこれを出発点にする。投手の青木正一と野手の加藤信夫が「打撃投手」であった。翌13年には朴賢明が打撃投手を務めている。

戦後、川上哲治によると、昭和24年ないし25年にはバッティング専用の投手がいた。このころの打撃投手は、練習のなかで実戦の感覚を身につけ首脳陣に認められて一軍で活躍する選手もいた。「神様、仏様、稲尾様」の稲尾和久はその一人である。そうした時期が長くつづくが、1970年代の終わりのころから保有選手枠の関係で選手登録から外れた球団職員という身分の打撃投手が登場するようになる。1990年代（平成のはじまり）になると一軍でエースとして活躍した選手が打撃選手になる例が生まれる。ジャイアンツの来栖祐作がその例である。

AIの登場によって、ピッチングマシンの機能が向上し、打撃投手は不要になるか。澤宮は否定的である。打者に球を投げることに打撃投手の役割は集約できない。打者の立場にたつて配球を考えることなど打者とのコミュニ

入団したとの記載に目がとまった。野球協定の文言を無理に解釈して、巨人が江川卓との契約を発表し騒動になり、結果的に巨人がドラフトをボイコットした年でなかったかと思いつたのである。

調べてみると、直感当たっていた。当時の監督は長嶋茂雄であった。巨人は、翌年には、江川と小林繁とのトレードという信じがたい行動にでた。あの騒動のときに北野は巨人に入団し、そのときの監督の長嶋とともに国民栄誉賞を受賞することになる松井秀喜の打撃投手として活躍したのだと知った。

作者は、「空白の1日」に触れていない。バッティングピッチャーが主役であつて、周辺情報は主題を見失わせると考えたのであろう。同様のことは、打撃投手の出発点としての昭和12年（1937）の加藤信夫についてもいえる。プロ野球の黎明期とはいえ、野手でありながら打撃投手を引き受け、後に戦死。沢村栄治も戦死している。同年は、千人針、慰問袋づくりが盛んであつた時期にほかならない。

（春秋）

新型コロナウイルス感染症

人吉市医師会長 岐部明廣

中国・武漢発の新型コロナウイルス感染症は、武漢で発症した人が世界のアチコチに移動し、そこで新たな感染をおこし、世界のアチコチで猛威をふるっています。

ある意味、中国人の国際化を表しています。今、グローバル化がすすみ、中国人だけでなく、人の移動には国境がありません。感染症がひろがりやすい環境です。

昔はごく限られた地域の風土病にすぎなかったかもしれない感染症が、一気に世界のパンデミックを引きおこす地球環境になっています。

新型コロナウイルス感染症は世界中の人々の暮らしを脅かし、世界の6万人の生命だけでなく、世界資産3000兆円も奪っています。

これは傲慢な人間にたいする「神の仕業」かもしれません。表1を見てください。

表1をじっくり見てください。

毎日、この数字は確実に増えていつています。不気味です。

発祥地・中国武漢との各国の関係がじゅわつと見えてきます。

4月3日の現時点（残念ながら、今後のことは予測不可能ですが）の表1から見えてくることを箇条書きにすると、

(1)日本の人口比死亡率は（★現時点では）きわめて低い。奇跡的な数字だ。

(2)日本はよくやっている。感染経路を全例調査できる日本をほめたい。要請でも自粛できる日本人をほめたい。

(3)ブラジル、オーストラリア、チリなどの南半球の方の感染が遅くはじまっている。

表1 (R2年4月2日現在)

	①感染者数 人	②死者数 人	③人口10万人死亡数 人
米国	216721	5137	1.57
イタリア	110574	13155	21.7
スペイン	104118	9387	20.1
中国	82394	3316	0.23
ドイツ	77981	931	1.12
フランス	57763	4040	6.21
イラン	47593	3038	3.71
英国	29865	2357	3.51
スイス	17768	488	5.80
トルコ	15679	277	0.34
ベルギー	13964	826	7.32
オランダ	13696	1175	6.91
オーストリア	10711	146	1.67
韓国	9976	169	0.33
カナダ	9731	112	0.31
ポルトガル	8251	187	1.80
ブラジル	6931	244	0.12
イスラエル	6092	26	0.32
オーストラリア	5108	24	0.10
スウェーデン	4947	239	2.44
ノルウェー	4877	44	0.85
チェコ	3589	39	0.37
アイルランド	3447	85	1.80
デンマーク	3290	104	1.82
チリ	3031	16	0.09
マレーシア	2903	45	0.14
日本	2600	71	0.06
世界	937783	47261	

(4)感染力は強い。

(5)密閉・密接・密集空間では感染しやすい。

三密（密閉・密接・密集）は注意というところ、

弘法大師・空海は高野山で「ウソだらう」と笑っているだらう。

人口密度と感染は相関する。

(6)検査数の多さは必ずしも救命率向上につながらない。

検査数（率）と死亡率（あるいは救命率）には全く相関がない。

(7)医療崩壊が一番怖い。

医療従事者の感染・院内感染が医療崩壊を助長する。

奇跡的な数字を維持するためにも医療崩壊させてはいけない。

(8)医療崩壊が救命率を急激に低下させる。怖い。



2019年9月、ケニアの野生動物

世界中が、新型コロナウイルスによるパンデミックで大変なことになっています。以前、人吉市で「風を引いたらお脈拝見」と題して、講演をさせて頂きました。今回は、今まさに講演内容の記憶を呼び起こしていただきたく、筆をとりました。

風邪の原因はほとんどがウイルスです。皆様よくご存じの、冬の時期のインフルエンザウイルス、夏風邪のピコルナウイルス、冬に流行するコロナウイルス、そして今回の新型コロナウイルス等です。ウイルスが、のど、気管支、肺を攻撃すれば、のどの痛み、咳、痰、呼吸困難の症状が出現します。胃腸を攻撃すれば、腹痛、下痢が生じます。心臓を攻撃すれば…。これが厄介なことになります。「ウイルス性心筋炎」を発症します。症状や病状は、無症状、動悸、めまい、失神、胸痛、呼吸困難、意識消失、心肺停止…。はあ～～～?! なんのこっちゃ、さっぱりわからん! とお叱りを受けて当然です。ウイルス性心筋炎は、「多くは無症状」場合によつては突然死」、天国から地獄までの症状で、予後は、これま

風邪を引いたらお脈拝見——リバイバル編——

大草知子（おてんばドクター）



- (9) 医療従事者数には限界がある。
- (10) 人工呼吸器等の医療器具数には限界がある。
- (11) 入院ベッド数には限界がある。
- (12) (重症者のベッド確保のため) 軽症患者は入院せずに自宅待機または待機所で症状のチェックをする。
- (13) 日本の国民皆保険の良さが改めてわかる。
- (14) 中国のデータは全く信用ができない。
- (15) ウイルス感染拡大予防は人の移動制限・接触制限しか効果がない。ただし制限の時期を失すると大都会では簡単に感染爆発をおこし、怖い医療崩壊をまねく。今こそ都会人の強い自制が望まれる。(大都会の皆さん、ニューヨークを見よ!!)
- (16) みずぎわ対策はごく初期のみ効果がある。
- (17) 感染と国民性には相関がある。
- (18) 感染と習慣(手洗い習慣、住習慣、スキップ、ハグ、握手、集団会食等)には相関がある。
- (19) ワクチンができるまで、または集団免疫ができるまで、または治療薬ができるまで、(または「神の怒り」がおさまるまで) 感染は続くと思われる。

- それまでは「うつさない。うつらない。もちこまない」覚悟がいる。
- 「神の怒り」をひきおこす行動は慎もう。
- (20) タバコは致死率を高める。タバコをやめよう。
 - (21) 感染しやすい場所・都会には行かない。都会からの孫・子どもの不急の帰郷は断固ことわる。電話・スマホで密に連絡をとる。
 - 人吉・球磨の人が「自分は新型コロナウイルス感染症ではないかと疑う」ときは、他人・家族に感染させるリスクがあるので病院には行かずに自宅待機し、電話・スマホで人吉保健所又は「かかりつけ医」に相談する。
 - (22) 感染者の出ない田舎・地域ではウイルスを持ち込まない・持ち込ませないことに全力をそそぐ。
 - (23) 自然あいての趣味をもとう。
 - (24) 今こそ冷静に行動しよう。今こそ国の民度が問われている。わたしはすばらしい日本人を信じている。
 - (25) 必ずいつか虹がでる。

(4月4日脱稿)【きべ・あきひろ／人吉市】

た天国から地獄。無症状で自然治癒するゝ突然死ゝ数
十年後に「拡張型心筋症…心臓が伸びきったゴム風船
のようになる」による心不全、などです。つまり予想が
つかない結末の疾患です。



今回の新型コロナ
ウイルスも、未
知の部分がたくさ
んあり、多くの医
療関係者や研究
者が不眠不休でウ
イルスの正体解明
のために戦ってい
ます。医療最前線
では患者さんの治
療に奮闘していま
す。今回のウイル
スにおいても、「ウ
イルス性心筋炎」
の合併も十分に考

えられます。「ウイルス性心筋炎」の早期発見には、と
にかくこの病気を疑い、自分の「お脈を拝見」すること
です。親指の付け根に人差し指、中指、薬指を縦方向
にあて、橈骨動脈の脈を触れ、一分間の脈拍数、リズム
をチェックしてください。正常は（不整脈の診断・治療
中の方のお脈は様々）、安静時脈拍数は毎分60〜70回、
リズムは整です。脈が飛ぶ、リズムがバラバラではあり
ません。風邪をひいたら、ひいている最中ゝ治っても最
低2週間は、毎日朝夕、自分の「お脈を拝見」してく
ださい。いつもと違ったら、心臓専門の医師にご相談く
ださい。「ウイルス性心筋炎」はこの病気を知っているか
否か、自分でチェックしているか否かで早期発見、治療
につながります。

新型コロナウイルスに全世界が罹患しているいま、ど
うか皆様「日ごろから自分の体温、お脈を知っておく」「病
気になったら安静・入院で回復を待つ」を念頭に、ご自
愛くださいませ。

「風邪を引いたらお脈拝見」、大切ですよ！

【おくさ・ともこ／医師、宇部市】

追悼

板井優弁護士を偲ぶ

②

追悼 板井優弁護士

土肥勲嗣

「連絡します。板井」。1月24日付けのショート・メー
ルが最後の連絡となつてしまった。体調不良を知つたの
は2018年9月に人
吉市で開催された現地
調査のときである。翌
月に開かれた「古希を
祝う会」に私は次のよ
うなメッセージを送つ
た。



2008年9月11日、県議会前にて

「板井優弁護士には
川辺川ダム問題の解決

のあり方についてご教示いただきました。また『ノーマ
ミナマタ―司法による解決のみち』の翻訳（英語版、中
国語版、韓国語版）の出版にご一緒させていただきまし
た。これからは『司法による解決のあり方』について先
生のオーラル・ヒストリー（口述記録）に取り組みたい
と思っております。どうぞこれからもよろしくお願い致
します。」

翌年9月の現地調査にも、板井優先生は八重子先生
と参加された。ただ、体調は改善されてはいなかった。
私は八重子先生から許可をもらい、早速オーラル・ヒス
トリーを始めた。月1回のペースで熊本中央法律事務所
に通うのは私の楽しみとなっていた。体調は良くなってい
るように思えた。しかし、1月の約束の日時に板井先生
は現れなかった。

板井優弁護士を一言で表現すれば「たたかい」である。沖縄に生まれ、熊本で大学生活を過ごし、水俣病問題、そして川辺川ダム問題に取り組んだ。その理由を次のように語っていた。

「本当に被害者が被害を前面に立てて、大同団結すれば問題は解決できるはずだ。水俣の場合は患者団体が散り散りになって、団結をもとめてもなかなかうまくいかない。だから本当に、もし水俣の民主主義のちからが強かったらチツソだってむしろちゃんことはしなかったと思うよ。民主主義というか、そのことが前提となって問題を解決しなければならぬという思いが私のなかに非常に強くあって、川辺川の問題もやろうと考えた」。

板井先生の「たたかい」についてもっとお話を伺いしたかった。無念である。

【どい・くんじ／久留米市】

安く売られていたものを買ひ、北海道行きの備えもしていた。大学が決まったのは沖縄からの留学船が出る3日前だった。そして1968年に熊本へとやってきた。「その他」だった大学のある地で、板井先生は生涯の伴侶である八重子先生と出会い、水俣病や川辺川ダム、ハンセン病といった人権問題に弁護士として取り組み続けた。

私が板井先生に初めてお目にかかったのは、私が球磨川流域を訪れるようになった2004年、川辺川ダム建設問題に伴って開かれていた漁業権をめぐる収用委員会や、尺アユ裁判を傍聴したときだった。公判後の解説を伺い、質問したら答えてくださる。眼光が鋭く、言葉に迫力があり、心の内を見透かされているかのようで、お話するときに緊張したことを覚えている。私にとって、初めて具体的に接した弁護士が、板井先生だった。

板井先生から宴席で言われてから、これまでずっと引つかかっている言葉がある。「正義だけでは勝てない、力のある正義が勝つ」という言葉だ。当時は咀嚼しきれず、どうということだろう、と思っていた。「権力」に対抗する弁護士が、たとえば「寄り添う」などの柔らかく、耳障

正義をつらぬくには 板井先生から教わったこと

森 明香

板井先生と宴席をご一緒したことは、実は数えるほどしかなかった。酔って気分が良くなるとカチャーシー（沖縄民謡の踊り）を舞う、と噂に聞いたことはあった。実際目の当たりにした時に感動したことを覚えている。真似しているつもりでも私にはうまく真似できない独特な手の動きと、大きな体から繰り出されるしなやかなながらもキレのある舞いが、印象的だった。

板井先生は米軍占領下の沖縄で生まれたため、本土への大学の進学は留学生扱いだった。ご著書の『裁判を住民とともに・・・ヤナワラバー弁護士奮闘記』（熊本日日新聞・2011）によれば、進学先は第一希望に一橋大学、第二希望に北海道大学を考えていたが、結果的に進学した熊本大学は「その他」のうちのひとつで、受け入れてくれる大学ならどこでもよかったという。ベトナム戦争只中の当時、米軍の戦死者を包んでいた寝袋が沖縄の街中で

りのよい言葉を使うのではなく、「力」という言葉を持ち出した。二十歳そこそこの私はそのとき「正義は報われる、いや、報われてほしい」と思っていたのだと、今になって思う。

最後にお目にかかったのは、高知で就職する前の大学院生のときだった。そのときはお元気そうに見えたとし、「原発なくそうー九州川内訴訟」に取り組んでおられると伺ったことを覚えている。その後、体調を崩し気味であったことは噂には聞いていた。ただ、だいぶ痩せられたと聞いても、あの恰幅の良い板井先生のお姿からは想像することもできなかった。2月11日に熊本複数の方からメールで訃報を聞いたときにも、にわかには信じられなかった。

2015年4月、私は大学教員になった。そして社会や職場で、同調圧「力」の強さや、数の「力」が勝ってしまう現実、直面し続けている。板井先生が宴席であえて強調しておられた「力」に込めた意味を、もう一度尋ねたら、どう答えてくださるうか。今になって考えている。

【もり・さやか／高知市】

板井優弁護士の思い出

東 慶治郎

2月12日の夕方、熊本市へ行く。前日、旅立たれた川辺川利水訴訟弁護団団長板井優さんの通夜に参列するためである。高速バスの中で、いろんなことが走馬灯のように浮かんでは消えた。



川辺川利水訴訟で原告敗訴の判決
(2000年9月8日、熊本地裁)

斎場で、親族でもある友人に案内され、横になつておられる板井先生に、ゆっくりお会い出来たことは、ほんとうにありがたく感謝でいっぱいである。その姿は、あの激しかった行動、姿とは違い、優しいいっぱいのおだやかな、いい顔だった。思わず胸が詰まった。また、そこには享年

70歳という時間を、〈今では短い人生だとは思うが〉、ありったけの力で走ってこられた、生きぬいたという思いが、そこにあるように感じた。

思い返してみると、「よく、叱られたなあ」「よく注意されたなあ」という思いが蘇る。

一番に思い出すことは、熊本地裁での敗訴のときである。

あの時、板井先生は「この判決は司法の自殺である」とコメントされた。

勝訴を信じた一審での敗訴。このとき、国家の公共事業が、決して国民、言い換えるとそこに住む住民の願いを必ずしも実現するものではなく、それを踏みじってでも実行するものなのだった。

農民が主人公のはずの事業が、主人公を従わせる公共事業の現実、それを応援したのが一審の判決であった。それを「司法の自殺」とコメントされたのだろう。

先生は「百姓一揆が始まった」とも言われ、「そうか、私たちの運動は、江戸時代に農民がお上に反抗したあの運動と同じなのか」と妙に感じ入った。この言葉は、原告団団長だった梅山^{ふかし}さんが「これは、人吉球磨^{かじま}開闢^{かいびく}以来の事件

であります」と報道陣を前に言われた言葉と共に深く刻まれた。

熊本地裁での判決のとき、勝ったときには「勝訴」の垂れ幕、敗訴のときには「不当判決」の垂れ幕を持つて、外へ知らせること、と打ち合わせていた。裁判長の判決文が一言、二言、口から出た瞬間、私の判断がつかないうちに「不当判決」を渡された。

その後、弁護団からは前述したコメントが出たのだが、原告団にはふ厚い判決文を渡され、「コメントせよ」と。瞬時に判決文に目を通し、判断せよと言われ、迷いに迷った。なんとか団長の梅山さんがコメントされたのだが…。

そんなことを思い出しながら、その場の状況判断の早さ、情報分析能力、的確さにただただ驚いたものだった。

それは、福岡高裁での勝訴判決の時も同じように感じた。裁判長から二、三言の言葉が出た瞬間、勝ったと、もう次の行動をされた姿。その時には裁判官の前を小走りに飛ぶように移動された。こんなに身軽だったのかと思い、全身が輝いているように感じた。梅山団長の満面の笑みと共に忘れることの出来ない姿がそこにあった。

国家の大きな権力に対し、正面から戦うときには世論を味方にするのが一番大事なことでと言われていたことも思い出す。

熊本地裁だったと思うが、エレベーターの中で、「理屈では勝てない、力があつてこそ正義が勝つのであつて、正義が勝つのではない。力とは国民、住民の世論なのだ」という意味のことを言われた。

敗訴の後、東京活動が終わり、羽田空港で別れるとき、弁護団から、今後の戦い方の三本柱を提案された。一つ目は「対象農家の約四千戸全部の意向調査する」、二つ目は「利水事業が費用対効果に合わないことを証明する」。三つ目は「忘れたが、一つ目は『アタック二〇〇一』と称され、ダム反対運動の総力を上げ実行し、三分の二以上、利水事業への賛成同意が無いことを裁判所が認め、勝訴へと導いた。

それから漁業権の売却の問題、土地収用の問題など全部に先生の姿があった。

最後に相良村長、人吉市長、そして県知事と白紙撤回され、川辺川ダム工事は止まった。そして凍結された。

その後、利水事業計画は、新利水事業計画と名称を変え、

国・県・関係市町村、それに原告団、弁護団を交えての話し合いに移った。

最後に板井先生にお会いしたのは、人吉の東西コミュニティセンターの玄関だった。「おい、うまか焼酎、まだ飲んどらんぞ」が、私への辞世の言葉となった。

熊本県庁での新利水計画の第一回目の会議の休憩時間に所用があり、退席しようとした段階で、「お前は敵前逃亡する気か」と大声で怒鳴られたことと共に、忘れることの出来ない言葉となってしまった。

この川辺川ダム反対運動に参加して、いろんな人と出会い、そして学ばせてもらった。特に板井先生には、腹が立つこと、感動したこと、普段の日常生活では見るものの出来ない世界を経験させていただいたこと、本当に感謝しています。

私の知る活動した仲間の人たちも、だいぶ、そちらへ行かれました。本当に寂しくなりました。

合掌

【ひがし・けいじろう／人吉市】

胃の病

漱石が胃患を持病としていたことは有名だ。43

歳の8月に鎌倉で重篤な状態となり、そのまま鎌倉の菊屋旅館で2カ月ほど療養をして幸いにも回復した。ここでの療養は「修善寺の大患」といわれ、その後の漱石の人生観に大きな影響を与えた。すでに売れっ子の小説家だったが、療養中は長い文章は書けなかったようだ。その後書いた随筆に療養中のときの句を載せている。

秋晴に病間あるや髭を剃る

漱石43歳

秋風やひびの入る胃の袋

病む日又簾の隙より秋の蝶

静なる病に秋の空晴れたり

稲の香や月改まる病心地

骨の上に春滴るや粥の味

病んで夢む天の川より出水かな

風に聞け何れか先に散る木の葉

冷やかな脈を護りぬ夜明方



いわさき楊子

柳人があじわう漱石俳句

— (49) —

露けさの里にて静かなる病

病んで来り病んで去る吾に案山子哉

今日は胃の具合がいいから髭でもそるか。それにしても秋になったというのに我が胃にはひびが入っているようだ。秋の蝶が簾越しにときどき見舞いにくてくれる。今日は胃の調子がいい。秋空がきれいだ。実りの秋に稲の香りがしてきたぞ。まるで春がしみるように粥が温かくておいしい。

十月にもなつて、具合の悪いときに天の川が氾濫する夢をみたぞ。木の葉も散り始めたが秋風のみが知る我が命だなあ。このごろ明け方の脈は正常だし、朝露が美しい里にいて病は癒えてきているようだ。田んぼの案山子君、ここに来た夏のころも立っていたね。そろそろ東京に戻るときが来たようだ。さくらば。

(11句の散文的意識 楊子)

六階の小児病棟星流る

病院の隔離室から見る桜

【いわさき・ようこ／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

北御門 二郎・訳

トルストイ短編集



新たに編集された「カフカズの捕虜」「神は真実を見そなわす」「舞踏会の後」「壺のアリョーシャ」「贗造クーボン」の5本を収録

レフ・トルストイ／作
北御門 二郎／訳
表紙絵／田口宏昭
北御門すすぐ・たえ子／編

■A5判／並製本／192頁
■定価 1,500円(+税)
送料 100円

帝政ロシア時代の物語を
北御門二郎の「心訳」で贈る
現代人へのメッセージ

直販の
申込は

〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田 675-3
TEL・FAX0966-22-7601 info@hitoyoshi.co.jp

人吉中央出版社

くまがわの神さん仏さん 44

上林町大坪地藏堂

— お堂を支えるお母さん —

宮原信晃

春の彼岸が来たというのに、何もかにも中止。せつかく「大人の修学旅行」で彼岸の中日には奥球磨の観音巡りをしようと思ったのに。国宝

級の阿弥陀様、昔は札所だった観音堂、霊験豊かな神社への参拝と、これまでになく大サービスの神さん仏さんに出会える旅も、周りの目を気にしながら秋へと延期した。



大坪地藏堂のお地藏さん（人吉市上林町）

江戸時代の病の波及とまるで同じではないか、何をしている政府と医療は。だからこそ、お上があてにならないので庶民は昔から身近

に仏を設置したのが「庚申信仰」や「地藏さん」か。

今回は人吉市上林町2区の「大坪地藏堂」をご紹介しますと思う。

上林町の通る農面道路からヒョイと奥へ入った場所にお堂がある。そこは道幅の狭い旧道で、昔の往来の人たちの姿を想像させる。

「そいが、川ん水ですよ。そば使って火事は消すとです。ばってん、火事はそこからなかつですよ。みんな、こん地藏さんが火事にならんごととしてやんなつたと、思ってます。それから、耳の神さんともいわれています。そこん奥のところに、穴の開いた石のあつてしょうが。耳ん悪か人が拾うて来て上げなつとですよ。そう語ってくれたのはもう少して82歳になる西美和子さん。

年季の入った日焼けしたお顔の中に仏様の慈悲とか優しさが見えた。「美和子さんはいくつでここに嫁に来たんな」と聞いてみた。

「19歳で球磨村の神瀬から来たつですばい。9つ上の人に」とすこし恥ずかしそうに教えてくれた。嫁に来たころはお堂が傾いていた

ので、近所の人たちが総出でお堂を起こして立て直したそう。昔も今も地藏堂に奉仕する人たちの集落のよう。だ。

「年に1回は祭りばみんまでしますばい。わたしや、月に1回か2回はお堂の中を掃除して、花ば上げますよ。」



「月に1回か2回はお堂の中を掃除して、花ば上げますよ」と語る西美和子さん

どうりできれいな花がお地藏さんの隣に飾つてある。「あん先の畑で花ば取つてあぐつとですばい」とご自分の畑に季節の

花々を植えて、それをお堂にお供えするという。今はスイセンや菜の花がお地藏さんのドレスのように華やかさを放っている。

16世紀ごろの室町時代のお姿のお地藏さん。その隣には「毘沙門天」かとも思われる仏様がおられた。

そんなとき、お友達が軽自動車でお迎えにこられた。

お忙しいお方なのである。慌てて小走りでご自宅へお帰りになる姿には、まだまだお地藏さんにご奉仕される体力、気力、器量があると確信した。

「お地藏さん良かったねえ。」

【みやはら・のぶあき／宮原はり灸院院長】

大発見!

一枚の古写真から

①

益田啓三

ある旧家に遺されていた古写真を紹介しよう。

- ・人吉藩主に関わるものである。
- ・写真は古いので画像は、はつきりしない。当たり前である。
- ・正確な撮影年月日はわからない。そうだろう。
- ・どこで撮影されたのかもわからない。残念。
- ・だれが写したのかも不明である。やっぱり。
- ・金額は…。分かるはずもない。でも高かったはず。たぶんそうだ。

右――

『第三十五代 相良頼基』

人吉藩最後の殿さまじゃ。

まだ江戸時代の匂いがある写真であろう。

丑年騒動、明治維新、戊辰戦争など大変な時代じゃった。

子供はいっぱい作ったが今の当主はわしのひ孫じゃ。



球磨地域のある旧家で発見した「相良頼基」(右)と「相良頼紹」(左)の写真



左――

『第三十六代 相良頼紹』

明治から大正時代の当主じゃ。

この写真は明治五年(1872)に写したもので十九歳じゃった。

先代の頼基はわしの叔父さんじゃ。

わしは「子爵」で貴族院議員もしておった。

伊藤博文といっしょにヨーロッパにも行ってきたぞ。

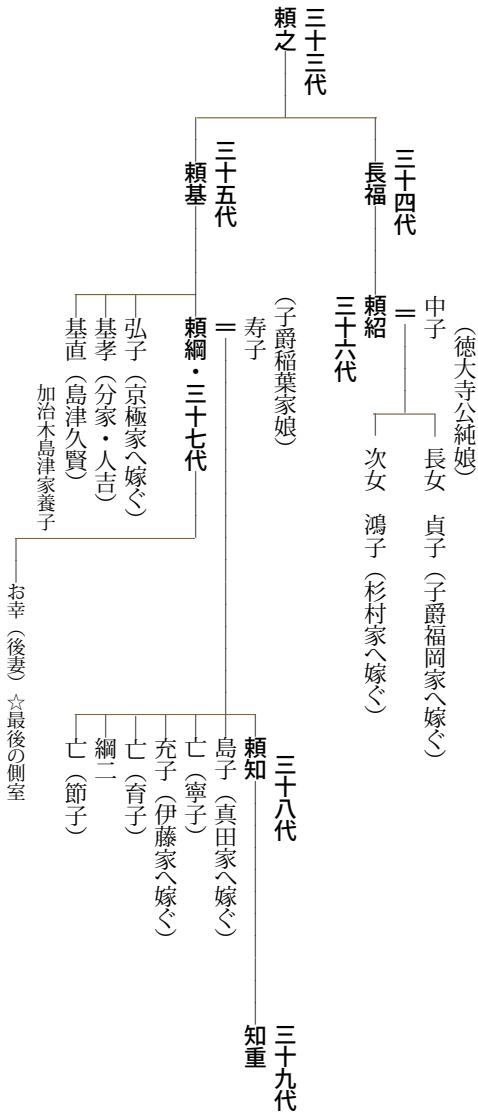
「鹿鳴館」にも行ったことある。ダンスは「秘密じゃ。

最後は「従二位 旭日小綬章」も貰ったぞ。

子供は可愛い娘が二人、やはり同じ子爵家に嫁に行った。

【ますだ・けいぞう／人吉市】

【相良家系図】



八代市鏡文化センターをあるく

森山 学

八代市の文化ホールには、建築家・芦原義信による名建築、八代市厚生会館（一九六二年、本誌十号掲載）や、くまもとアートポリス推進賞選賞を受賞したやつしろハーモニーホール（二〇〇〇年）がある。そしてもう一つ、見落としてならないのが鏡文化センター（一九九九年）。今回はこの鏡文化センターを訪れたい。最寄りのバス停「八代市鏡支所前」までは有佐駅からバスで七分。

バス停のある県道より西へ三〇〇

メートルほど行けば、江戸時代の海岸線である櫛塘脇街道が通る。文化元年（一八〇四）、この地先に百町新地、文政四年（一八二二）、さらにその先に七百町新地が干拓される。無論、球磨川からの導水が広大な干拓を実現させたわけである。近代にも県営北新地が造成され（大正五年＝一九一六）、すっかり海は遠くなつてしまった。

この建物の設計者は黒川紀章建築都市設計事務所。その屋根には、建築家である故・黒川紀章の建築文化、社会に関わる大きな思想が込められている。

黒川紀章と言えば、「違いのわかる男」としてテレビコマーシャルに出演し、夫人は女優・若尾文子。晩年の二〇〇七年には東京都知事選にも出馬し、広く一般に知られた建築家であつた。特に若い頃は、マスメディア時代の新しい建築家として、女性週刊誌などで「現代のエース」「現代が生んだ教祖」「建築界のプリンス」ともてはやされた。

世界からも注目された黒川



写真① 八代市鏡文化センター全景

氏のそのきっかけは、一九六〇年開催の世界デザイン会議において、メタボリズム・グループの一員として「メタボリズム」運動を宣言したことに由来。当時、グループでは最年少の二五歳であつた。

「メタボリズム（新陳代謝）」は、生物のように新陳代謝をし、更新していく都市・建築の提案である。その後も、遊牧民のような「ノマド的移動社会」や、縁側に例えられる内部でも外部でもあるような「中間領域」など、刺激的でダイナ

ミックな世界観を次々と公けにし、やがて一九八〇年代に入ると、それらを包括する「共生の思想」を表明する。いまや一般的用語である「共生」の生みの親である。

黒川氏は二十一世紀を生命の時代とよぶ。西欧諸国や人間という強い種が他を屈服させる自然淘汰の時代から、生物多様性が求められる時代へ。共生はそんな時代にあつて、対立し、競争しあう相手を、それでも互いに必要とし、その個性や文化に敬意を払う関係とする。ピラミッド型や線状の関係ではなく、もっと複雑で多様、ダイナミックで偶然的なもの。そして対立しあう各々は、中間領域によって結びつく。

こうして予見する時代を、世界

情勢、経済学、生物学、哲学、日本文化などを総動員して説明していく。この大きな思想が、建築の設計にどうやって着地するのだろうか。



写真② 屋根と山並みの重なり

二十一世紀は、二十世紀の近代建築を批判しつつも、継承しなければならない。近代建築の抽象的で幾何学的な建築と、歴史、風土など



写真③ 正面の傾斜するガラス壁と翼形の手車寄せ

の地域性や伝統との共生が図られる。黒川氏のデザインには、格子や円錐や球体が確かに多い。しかしそれらをずらし、傾け、切り裂いたりしながら、配置しなおして新しい関係をつくりだす。地域性や伝統、自然との共生を表現するために。ちなみに波打つ曲線は「フラクタル幾何学」とよばれ、幾何学でありながら自然の不規則性を解明できるものらしい。そのため波打つ曲線はそれだけで、先の操作と同じ効果をもつ。この曲線の最高傑作が国立新美術館（二〇〇六年）であろう。さて、やっと鏡文化センターを味わえる準備が整った。まずは近代の抽象性と地域性との共生が意識されている、フ

ラクタル幾何学の屋根。地域性とはかつての海岸線であろう。今でも海までの平坦な農地は八代海を彷彿させる。また山手を振り向けば、山並みと屋根が呼応する(写真②)。



写真④ 屋内から見たガラス壁。扉の取っ手はフラクタル幾何学

手前へ傾く正面の壁は一面ガラスである(写真③)。コンクリート打ち放しの建物全体と対比的である。その前の翼のかたちをした車寄せの屋根、これも黒川氏の十八番で、



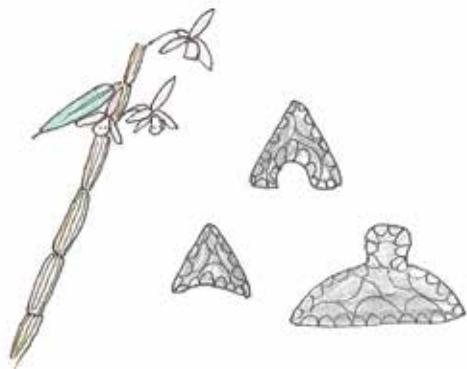
写真⑤ ホワイエ

ひさしや社寺の反り屋根を抽象化したものである。日本の伝統と近代文化の共生。玄関のガラス扉の取っ手(写真④)には、再びフラクタル幾何学の曲線が用いられる。翼形や曲線の取っ手は、鏡文化センターの五年前に竣工した和歌山県立近代美術館・博物館でも、使用されている。

扉を抜けた先のホワイエ(写真⑤)はまっ白な内装で、二階席へ上る階段は宙に浮いているかのようである。八代海の波に呑みこまれたと、そこは抽象的でピカピカした近代空間だった、という演出。しかしその床の幾何学模様は畳表をイメージしており、八代らしさは失われていない。ホール内の壁面の凹凸は音響効

おっとわっとあすび その39

絵と文／松舟博満



流行ん園芸と考古学

子どもえも流行んあつて、あつ時にや竹ランの取つの流行つたで、近辺にや天狗平んトツペン（トツペン）の岩場んしきや無かつたで、岩山ん登つて採つたばつてん、後からにや

北側と西側ん絶壁んしきや無かつたで、木ば切つて下れえてそば伝つてから、竹ラン・ヒモラン・ムギラン・岩松ぐたつとば採つてさるき居つた。

子どもの頃れえ村ん上ん畑に、雨のえろうあえた（沢山降つた）後ん上がつてみれば、霜柱んごてえして石の浮き上がつとつて、そんなきや昔んしの使わいた黒曜石ん矢尻んあつたで、そつぞれえ集めて時にやカヤん芯にくびつて、弓で射つてあすびおつた。大人んなつちや雨のえろうあゆれば畑ん上がつてひるうてさきおつた。

矢の先い付くつてえなしきや（何故）矢尻て云うとじやろうかと思つて、上村ん高田素次先生ば訪ねて行つたところが、「矢尻ばつ

かつじゃ無しい畑にや無かあ石んつつかげや土器んぐたつとも集めんば、何時頃んとか云われん」て教えつもうて、初めつからやんなおしで、高田学校の考古学ん弟子んしてもうて、古集学から考古学ん変わられた。そぎやあやつて集めとつた石んひつかげん中から木崎君（今は博士）から先土器（旧石器）時代んとの有つとば教えつ貰うて、今度あどぎやん所つから出てくつどかあともうて、高速道路の発掘調査んかて貰うて、どぎやん泥ん所つから出て来れば、何時の時代ちゅうとも知つて、県内の何処其処ん調査んかててもうつたどじやつた。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】



写真⑥ 野外劇場



写真⑦ 傾斜する壁と回廊の関係

果のためであるが、モチーフは折り紙である。波打つ屋根と折り紙の壁面は、鏡文化センターと同年に竣工した久慈市文化会館にも見られる。

施設にはホールのほか、図書室、リハーサル室・研修室・視聴覚室、公民館、野外劇場（写真⑥）が複合している。

最後に、建物の周囲の回廊（写真⑦）について考えたい。これは日本建築の下屋やひさしのようであり、コンクリートの巨大な壁を和らげる。また西欧の広場や日本の寺院の回廊とも読める。ホールやホワイエ、図書室を、人が集まる広場や、大切な金堂・五重塔に読み替えたのかもしれない。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】



日本三大急流 くまがわ下り (2020年2月10日)

時、ドーッと笑いが起こった。

何でも無い顔をして、ぬすけーて「予選会に落選した

【うえずぎ・よしの／ボランティア観光バスガール、あさぎ町上

NHKのど自慢予選会に行き、悲惨な思いで帰って来た者もい

会に参加してよかった。初めは、行かないと言っ

の皆様に心から感謝致します。次回会えるのを心待ちにしながら。

日の水俣で行われたNHKのど自慢予選

うだ。でも山にこもらずに同窓会に参加してよかった。

し、夫婦そろって元気に古希の祝いに参加出来た。

わんばってん！」と自分の事を言った。その時、クスクスと笑い声

で「来んどオー、もし、つっこけたら山にこもる」

は「あんたは古希の祝いに行きなさい」と仕向けられ

ず頑張って新聞に載った者もいる。誰とは言

人に「芳野ちゃんは、もし予選会につっこけた時は

にぎわった。やっぱり神様が今回だけは「あんたは古希の祝いに

いる者、校長退職後教育長として頑張っている者、そして剣道でま

た。その時、私の主人ながら「挨拶上手だなー」と思っ

皆も温かく迎えてくれて私いつもの様に皆に衣装を着せて、全員で総踊りで

す」と笑わせた。挨拶の中に「農業で頑

張って表彰を受けた者、建設業で社長として頑張っ

た。その時、私の主人ながら「挨拶上手だなー」と思っ

皆も温かく迎えてくれて私いつもの様に皆に衣装を着せて、全員で総踊りで



上杉芳野の「あがつ段」④

夫婦そろって古希祝い



令和2年2月9日 古希祝い



同級生の身長・体重・顔、選び抜かれた踊り子たち

人吉駅から移動してアンジェリク平安で祝賀会となった。実行委員会の会長である我が主人、謙ちゃんが会長挨拶をした時、「オーイ謙、立って言えー」との声があり、主人は待つてましたとばかり、「これでも私は立つておりま

2月8日のNHKのど自慢予選会に落選したお陰で、令和2年2月9日、同級生と一緒に古希の祝いに参加する事ができた。朝早くから旧上村の白髪神社に集合し、お祓いをして頂いた。同級生って本

当に良い。何十年振りかに会うのに、何年も会ってなくとも昔のまんま。「達者かったなアー、どぎやーんしとつた？」と話が弾む。お祓いの後、免田のあさぎり駅からくまがわ鉄道の湯前線に乗り、同級生50

名程が下り湯前駅まで行く、ひな祭りの飾りを見て、上り人吉駅まで汽車の旅を楽しんだ。いつも車の移動ばかりなので、久しぶりに汽車の中から観る人吉球磨ののどかな風景に感動さえ覚えた。

アマビエ様

幕末に、肥後の海に光るものがあつた。肥後のどの付近の海かは確かでないけども、光るものといえば不知火海（八代海）の可能性がある。そのウワサを聞いて役人が駆け付けた



アマビエ様についての瓦版(京都大学付属図書館蔵)
(同書簡 Twitter より)

ところ、半人半魚がいた。口ばしがあつて足が3本あつた。身体はウロコでおおわれていたという。「アマビエ」という名で、自分の姿を描けば疫病は収まるといったという。このウワサは全国に広まり瓦版で紹介されるまじになった。

瓦版は京都大学付属図書館に保存されているが、さすが京大大学付属館である。同図書館は3月2日付ツイターで瓦版を紹介し、アマビエを書いてみませんかと発信したのであつた。新型ウイルスの収束を願う庶民の気持ちを大切にす粋な計らいである。水木しげるの『ゲゲゲの鬼太郎』にもアマビエは登場し妖怪の一種のように誤解している人も多いだろうが、疫病から人を救う神さまと考えたい。

同図書館の紹介以降、アマビエ様を描く人が急増している。伝達手段は、瓦版からSNSに変化したけれども、人の根底にある心理作用に変わりはないようにみえる。トイレットペーパーの買い占めに走るよりも、アマビエ様を描くほうが精神的に豊かに思える。

瓦版の説明文は以下のとおり。「肥後国海中え毎夜光物出る。所の役人行見るに、づの如く者現す。私は海中に住、アマビエと申す者也。當年より六ヶ年の間諸国豊作也。併し、病流行、早々私写し人々に見せくれと申て、海中へ入けり。右写し役人より江戸へ申来る写也。

弘化三年四月中旬」。

(春秋)

追悼・三原竹二さん

人吉労音とともに

人吉勤労者音楽協議会運営委員長 淵上公典

三原竹二さんとの出会いは、人吉労音第74回例会「東京少年少女合唱隊」(1971年7月)で、初めて生の音楽にふれ、大いに感動し、労音運動に関わるようになりました。



人吉労音の総会で花束を受ける三原さん

それから半世紀、「良い音楽を安く、多くのひとびとに」のスローガンを掲げて、職場や地域にサークルをつくり、会員が主人公の音楽鑑賞運動を進めてきました。

三原竹二さん

は、人吉における文化運動の理論的リーダーとして私たちを牽引してこられました。1964年に人吉労音を立ち上げたのち、1966年に人吉労演(のちに市民劇場)、1974年にひとよし・くま子ども劇場、1977年に人吉くま映画文化協会が誕生し、1979年にはこれらを束ねた文化鑑賞四団体連絡協議会を発足させ、代表を務められました。

その足跡は、1974年発刊の「人吉労音十年音楽鑑賞運動のあゆみ」をはじめ、1982年「くまざさの歌」、1989年「続・くまざさの歌」、2004年「く



三原さんが遺した著作

まぎさの歌・Ⅲ」、2014年「霧の盆地に拓く文化」などに克明に刻まれています。

人吉労音の56年は、「みんなは一人のために、一人はみんなのために」を合言葉に、会費を持ち寄り、自らの手で308回の例会を開き、延べ19万人の聴衆に感動を与えてきました。

しかし、これらは、どれ一つとっても楽なものではなく、困難の連続でありました。

私は、運営委員長を引き継いでいますが、壁にぶち当たったときは、これら蓄積された歴史を学びなおし、初心に立ち帰ることにしています。

三原竹二さんには、私たちを指導していただきましたが、たのですが、叶わぬこととなり残念でなりません。これからは、三原竹二さんの遺志を受け継ぎ、労音の火を灯し続けてまいります。

【ふちがみ・きみのり／人吉市】



早春・文化の集い懇親会。講師の森永玲さん（長崎新聞編集局長）を囲んで。前列右から二人目が竹しゃん（'18年2月、相良藩田）

「三原さんの病状については秋丸貴敏事務局長から入退院のくり返しだと伝え聞いてはいた。しかし、三原さんは責任感の強い人だから、代表挨拶をするためにひよっこり姿をあらわすかもしれないという思いも一方にはあっ

文化運動の理論的リーダー

「早春・文化の集い」前事務局長 上田精一

背筋をしゃんと伸ばしての代表挨拶

今年二月の「多喜二・百合子に学び語る早春・文化の集い」に、あの背筋をしゃんと伸ばした長身の三原竹二さんの姿はなかった。急遽代表挨拶に立った事務局メン



背筋をしゃんと伸ばして代表挨拶をする竹しゃん（'08年、人吉市東西コミセン）

バーの一人、嶋田正剛さんは「三原代表は体調をくずし今日を残念ながら欠席です。三原さんのような格調高い挨拶はできませんが——」と前置きし、三〇年を超えるこの会の歩みに触れつつ「これかも五〇人を超える

た。いや、きつと会えるという期待を込めて集いの前日、転居先の南島原から車を飛ばして人吉入りしたのであった。会場入りして三原さんのことをまず数人に聞いた。通院にも車を運転していると知り、車を運転するほどの元気があれば大丈夫とひと安心した。しかし別の友人からは体重が四十三キロまで落ち、げっそりやせやったばいとも聞き及び、心配しつつ嶋田会長代行挨拶に耳を傾けたのだった。

質的にも量的にも大成功の「早春・文化の集い」

集いは今年も大成功であった。独特の「三原節」のなかでよく使ったことばに「質量ともに」がある。今年の早春・文化の集いもまさに「質量ともに」成功したと言えるのではないかと思う。

質の面では藤田廣登さん（千葉・多喜二研究家）の講演「多喜二と千代子を結ぶ点と線」は治安維持法違反による逮捕、拷問がもとで二十四歳の若さで病死した伊藤千代子（1905～1929）の生涯に光をあて、参加者一同の心を深く捉えた。参加者も最低目標の五〇人を

上まわる六〇人を超え、量の面でも大成功であった。恒例の講師を囲んでの懇親会も二〇人を超える参加者で大にぎわい。

三原さんはこのアルコール交流にも常に満面の笑顔で参加していた。病気とは言え、三原代表の欠席は大黒柱が折れたようでさびしい限りだった。参加がかなっていたら、今年も質的にも量的にも大成功、と焼酎片手に大よろこびしていたにちがいない。

“竹しゃん”の愛称で呼びつづける

二月二十五日午前、嶋田さんから訃報が届いた。二十三日夕刻、三原さんの容態が急変し、救急車で運ばれ緊急入院、翌二十四日夜、九時三十九分に亡くなったとの知らせであった。二十三日の昼間は元気だったらしいという。ああ、フェリーを二便遅らせてでも訪ねておれば「竹しゃん」大成功だったばい」と、よろこびの握手のできたのに――。

今、私はこの文章で初めて「竹しゃん」と書いた。私は三原さんとの出会い以来、面と向かつては「三原さん」

とは呼ばず、「竹しゃん」と呼びつづけたのだ。その竹しゃんとの出会いはいつのころだったろうか。たしか映画『ドレイ工場』（1968）の実行委員会（地区労・教組・労音・市民劇場）のころではなかったかと思う。労音からは三原さん、私は教組文化部の一人として参加していたように思う。

このころは会合のあとは、かならずといつていいほど焼酎飲みで懇親を深めていた。酒好きの私はそれが楽しみで各種の会合に参加していたものだ。三原さんと同世代の人たち、つまり私の先輩たち（こんどよりうさん宮原茂富さん、伊勢戸明さん、大山次郎さん。いずれも故人）は親しみを込めて「竹しゃん」と呼んでいた。六歳年下の私も、いつしか「竹しゃん」の愛称で呼ぶようになったのだった。

映文協の草創期をリードした竹しゃん

竹しゃんは労音結成後（1964）、労演（現・市民劇場）やこども劇場の結成にも積極的にかかわり、さらに第四の鑑賞組織として映画の鑑賞団体の結成にも意欲

を燃やしていた。その結成を視野に入れての『祇園祭』『若者たち』の上映運動を経て「よい映画を観る会」を結成（教組教文部・労音・市民劇場で構成）し、人吉に唯一残っていた映画館―第一映劇―（一九九〇年閉館）と提携し、同館を事務局に活動を展開した。三七〇名の会員を有し、一例会平均一、六〇〇名の観客を集めていたが、運営委員のメンバーが他の活動との兼任で多忙な人ばかりであったため、映画運動のみに専念することができず一年半で消滅してしまった。この間に上映した作品として『招かれざる客』『橋のない川』（第一部）『アンナ・カレーニナ』『戦艦ポチョムキン』などの名作を上映した記録が残っている。

竹しゃんは労音会長の任にありながら、それでもなお映画運動への情熱を絶やさず、再び実行委員会方式での上映運動に参加しリードした。主として熊本映画センターとの提携により、『小林多喜二』『猫は生きている』『ふたりのイーダ』などを上映したところである。このころの竹しゃんの口癖は「映画の恒常的な鑑賞組織ばつくらう」であった。



『くまざさの歌・I』の出版祝賀会。スクラムを組み「君と歩こう」を歌う竹しゃん（1982年、建設業会館）

こうして、一九七七年十二月三日、会長に穴井那津二先生（故人）を迎え、事務局長に私が就いて「人吉くま映画文化協会（映文協）」が誕生した。奇しくもこの年十二月二十五日、チャールズ・チャップリンが亡くなった。偉大なチャップリンの遺志を継ぐかのような映文協



願成寺・泉田九条の会事務局会。右から2番目が竹しゃん（'09年、願成寺公民館）



詩「憲法と私」（三原竹二作）の群読に出演の竹しゃん。九条の会人吉球磨ネットワーク主催（'05年、教育会館）

の誕生だ」と、竹しゃんは第四の鑑賞組織、映文協の発足をよろこんだものだ。そして自らも運営委員の一員として参加し、映文協草創期をリードした。

ちなみに映文協は昨年、二代目の会長、映文協のシンボリック存在であった瀬戸致行先生を失った。会長不在のままの映文協は今、立場和彦四代目事務局長を中心に、映画運動の灯を消すなを合言葉に、コロナ禍にめげず活動を展開中だ。

人吉労音結成以来四〇年間、労音と苦楽を共にしてきた竹しゃんはその後継生した市民劇場、こども劇場、映文協による鑑賞四団体連絡協議会（四団体）の結成に力を尽くし、つい一九七九年、結成総会を開くに至った。推されて会長の

任に就き、四団連をリードした。

この四団連発足総会での「文化活動から得た三つの教訓」を述べた会長挨拶は今も私の脳裏に強く焼きついている。その三つとは、

- ①例会づくりに泣いて例会で笑おう。
- ②うまくいかない運動を他の団体との併存の困難さに理由づけしない。
- ③四つの団体は排他的にならず、自主、独立の活動を追求し、お互いに援助を惜しんではならない。

この二つを具体例を挙げながら語り続けた。竹しゃんの長話しとひやかされながらの長い会長挨拶ではあったが、科学的な検証に裏打ちされた、人吉球磨の文化運動の、未来へのみちすじを指し示した理論的語りであったことを今もなつかしく思い出す。

“ねばりの竹しゃん”なればこそ

竹しゃんの“ねばり”には定評がある。そのねばりなくしてできない仕事をこの他にもいくつも成し遂げている。専門分野では人吉球磨現地の農業を丹念に取材して

の『農を拓く』の出版（一九八九）、“人吉球磨に芸術の殿堂を”と市民運動を組織し、カルチャー・パレス建設

のきっかけを作ったこと、そのカルチャー・パレスの館長時代に、「球磨民謡と踊りの祭典」を復活させ、“人吉に美術館を”の要求を組織して「人吉美術館期成会」を発足（一九九〇）させた。その事務局長としての活動から生まれた『彩・才・歳—人吉球磨絵画芸術の系譜—』（一九九三）の出版もねばりの成果だ。

“ねばりの竹しゃん”による最後の仕事は『人吉球磨革新の記』（二〇一九・二月）である。亡くなる一年前にこの大仕事を成し遂げて竹しゃんは逝った。

これらの書をひもとくと、文化運動に平和運動に情熱を燃やした竹しゃんのあの声が、あの笑顔が生き生きと蘇ってくる。

“竹しゃん”長い間の友情、本当にありがとうございました。私は新天地・島原で介護と平和運動、映画運動などに残生を捧げるつもりでいます。竹しゃんの遺志を継ぎながら――。

【うえだ・せいいち／南島原市】

婚姻論 ③

よばい (2)

上村雄一

三原竹二編著『人吉球磨民謡選集』(1998年9月26日 羽山プロジェクト・オフィス)は、次の三首の唄を収録している。

○
忍び男の よは何ん時か
忍びア九つ よは七つ



月はお前さんな そのあいに
月は山端に 三星ア西に
月のちよいと出を 夜明けかと思て
さまを帰して あと悔やみ
思うて通えば 千里も二里
思うて帰れば また千里
声がしたなら 顔見たかろが
会うて話も したかろが

昨夜来て見た 垣外までは
さまは茶の座に 上の空
木戸は通れど 呼び出しやならぬ
唄の文句で さとらのせ
○
今夜来るばよ どの間に寝ろか
東納戸の 次の間に
東納戸の 次の間に寝るな
朝寝した時や 出はならぬ
朝寝した時や 心配アいらぬ
わしが着物を 着せて出す
来やれなれども 人目が大事
人は目で知る 目でさくる

来やれちゅうたもね なしゆ来やらぬか

どこの小女郎が とめたやら

○

雪駄ちやらちやら 小唄で通る
どこの忍びの 戻りやら
昔通うた この細道も
今じゃ小草が 生いしげる

さまは御所柿 位が高い
わたしや山柿 及ばれぬ
忍び男が 猫ふみ殺エた
娘ア貸すいどん 猫戻せ

【注】

二首目冒頭の

今夜来るばよ どの間に寝ろか

東納戸の 次の間に

東納戸の 次の間に寝るな

朝寝した時や 出はならぬ

朝寝した時や 心配アいらぬ

わしが着物を 着せて出す

「草取り唄」の後半と同一である。
『坂本村史』(平成2年12月25日)
1137頁以下によれば、小川地区では田植え時期にこう唄われていた。

腰の痛さよ この田の長さ

四月五月の日の長さ

四月五月の 日にゃあかねども

好かぬ様女にゃ あき果てた

今夜来るばよ どの間に寝ろか

は、坂本(八代市坂本町小川)の

東納戸の 次の間に

東納戸の 次の間に寝るな
朝寝してから 出はならぬ
朝寝した時や 心配アいらぬ
わしが着物を 着せて出す
広く調べれば、人吉球磨の民謡の多くは、おそらくは、他の地でも広く唄われていたのであるが、ここでは深く立ち入らない。しかしながら、辛い田植えのとき、庶民は「よばい」の唄を歌っていたことは留意してしかるべきであろう。

以上の三首の唄をながめるとき、六調子の有名な「よばい」の唄であることを理解できよう。年配のみなさんには「馴染みの深い唄」で、あえて説明を加えるまでもないかもしれない。他方、若い人には理解できない歌詞があるだろう。たとえば「さま」は、分かるようで、しつくりこない言葉かもしれない。三原竹二は、それに「様」の字をあて「愛する男」のことであるとし、その説明でよいと思う。ほかにも解説すべき言葉があるだろうけども、眺めていれば大意は読み取れるだろうし、三原がこれらの唄を評して「人吉・球磨の恋唄」と述べていることに納得するだろう。

それにしても、なぜ、「忍び」なのか。三原によれば、「忍び」には「ひ

そかにする」、「ひそかに人家にはいりこむ」などの意味があるとし、それ故、「ヨバイ」の唄であると解説し、民俗学者の柳田国男の説明を引用している。柳田はこういうのであった。

「古くは、男が女のもとへ通う「通い婚」の時代があった。「婚(よばい)」の字があてられ、「ヨブ」からでて「呼び合い」という。「女に思いを運ぶ人」を意味し、ヨバイは正常な求婚手段、もしくは婚姻生活であった。近年では「ヨバイ」を「夜這い」と解して、親の同意なしに、相手の同意なしに、夜分、乱暴に忍びこむ行為と解せられるに至った。この変化は婚姻制度の変化によってもたらされた」

柳田の説明を正統的理解であると考え、三原は柳田を引用したのであるうか。「親の同意なしに、相手の同意なしに、夜分、乱暴に忍びこむ行為」との説明に疑問をもたなかったのだろうか。そして、なによりも、柳田のいうような行為が、じつさいに一般的におこなわれていたのかに問題はある。実証的な柳田の説明である。例外はあるにしても、男女の性愛の平均的な姿は柳田の説明のとおりであると三原は解したのかもしれない。「忍び唄」をみると、親の同意なしの性愛であったことは理解できる。大槻文彦『言海』のいう「私通野合」である。親の同意のない男女の性愛は、公的に認められる行為でなく、「野合」と

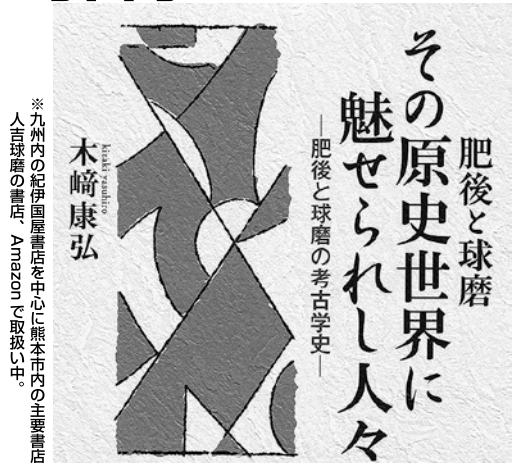
いうしかなく、正当な行為として認める余地はなかった。それでも、恋愛は親の力で阻止できるはずもなく、「親の同意のない性愛」があったのは確かであろう。しかし、「相手の同意のない、乱暴に忍びこむ行為」も許されていたのだろうか。エンブリーの『須恵村』を読むとき、同じく、エラ『須恵村の女たち』に接するとき。さらに小山勝清『或る村の近世史』の例を考えると「相手の同意なしの行為」があったようにもみないことないが、究極的には「相手の同意」は必要であつたろうし、ましてや、「乱暴に忍びこむ行為」が許されていたとは考えられない。

三原は、柳田を引用しつつも、『忍び唄』を次のように解説している。

「武士や大町民に比べて、生産者たち庶民は、自由に男女の交流があった。自由とはいっても、好き嫌いはある。唄には、若い男女には約束ごとがあり、秘められた楽しみ喜びがあり、合意した恋人同士の想いのたけが、かけ合い言葉として歌われている。」

武士・大町民からすれば「野合」であつても、生産者たち庶民にとつては「恋路」であつて、それ故に、「忍び唄」として長く歌われつづけるこ

考古学はドラマだ。



■A5判/約600頁/上製本 ■発行元 人吉中央出版社
■定価3,000円(＋税) 送料200円

※九州内の紀伊国屋書店を中心に熊本市内の主要書店
人吉球磨の書店、Amazonで取扱中。

となる。民謡には庶民の生活が刻み込まれている。唄を支える庶民の意識が投影されている。これらの唄に触れるとき、『源氏物語』でなく『万葉集』の恋唄を思い出す。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

住みたい田舎ランキング2020 から人吉・球磨の未来を考える

その④



人吉市医師会 会長 岐部明廣

「田舎暮らしの本」(宝島社)のラ

は凄い。

【総合部門】

ンキングは、2013年から企画がはじまり、ランキングの順位は、移住・定住に推進に積極的な市町村を対象に、移住者数・移住支援策・医療・子育て・就労支援・自然環境など、約230項目のアンケート結果から決定されている。それなりの信頼性はある。とくに移住者数(転勤・進学目的は除外)が重視されている。

「住みたい田舎ランキング2020」で検索する移住希望者もいるのも事実だ。インターネットの力

- 1位 大分県豊後高田市
- 2位 山梨県北杜市
- 3位 島根県飯南町
- 4位 大分県臼杵市
- 5位 兵庫県養父市

【移住者ランキング】

- 1位 新潟県粟島浦村
- 2位 香川県直島町
- 3位 鹿児島県三島村
- 4位 茨城県堺町
- 5位 鹿児島県与論町

- 6位 福島県昭和町
- 7位 大分県豊後高田市
- 8位 奈良県下北山村
- 9位 福島県只見町
- 10位 岡山県勝央町

移住者の絶対数ではなく、人口に対する割合(移住者÷人口)の多い順です。

1位の新潟県粟島浦村は日本海に浮かぶ人口343人の小さな村で、移住者はたったの9人に過ぎないが、その割合は人口の3%に当たる。凄い。

「住みたい田舎ランキング2020から人吉・球磨の未来を考える」

その①、その②で総合部門第1位の大分県豊後高田市(95・19点)、その③で人口5000人以下部門第1位、若者世代が住みたい田舎部門第2位の島根県飯南町(91・24点)をみてきた。ともに人口の1%以上の移住者(転勤・通学者は除外)がいる。

人吉・球磨10市町村の移住者(転勤・通学目的は除外)は人口の何%だろうか? 気になる。

第6次人吉市総合計画書には、【対策】を講じた場合の今後の人吉市の人口推移をグラフに書いていますが、今、大切なのは【その対策】が何かということではないでしょうか? 残念ながら第6次人吉市総合計画書の中で、【その対策】が何か、私に

はまったく見えません。

第6次人吉市総合計画策定委員に選ばれた委員も勉強する期間が必要です。少なくともたたき台の初期時点から数年がかりで、委員だけでなく広く住民の意見・アイデアを公募し、住民をとりこんでアイデアを勉強・研究・検討したらどうだろうか? 更には誰を委員に選定するかも市役所の一存で決めるのではなく、良い意見を持っている人物をひろく市民から推薦する仕組みを考えるべきでしょう。もう少し若者を活用すべきです。

市役所の職員の皆さんも仕事が多岐にわたり仕事量も増加し、大変でしょうが、もうすこしこれまでのやり方を変更して、古い慣習を打破して、住民の参画する機会を増やしたらよいと思いますよ。(そうしないと住民も市役所任せになって考えなくなり

ます。自分の町のことは自分たちで考える習慣をつけるように市民を誘導してください。

これからは、市役所も市民・民間の力を活用する道を探ってください。郷土を愛する市民は多いですよ。市民を大いに活用してください。

今回は若者世代が住みたい田舎部門第1位、総合部門ランキング第4位の大分県臼杵市(89・42点)にスポットをあててみよう。大分県臼杵市は人口36585人の人吉市よりやや大きな町だ。財政「田舎暮らしの本」(宝島社)の記事では、昨年4月、10月までの若者移住者13人、シニア移住者15人だった。

その移住対策は、

(1)移住体験滞在施設

「臼杵おためしハウス」で一定期間

滞在して、白杵の雰囲気や魅力を味わう。そのあいだに移住地域や住居を選定する。優しい配慮は移住希望者にはありがたい。

しかも無料。凄い。本気度が伝わ

る。人吉市には移住体験滞在施設はあるのだろうか？ 気になる。

(2)空き家バンク情報

109軒のうち…契約済56軒、交渉中9軒、募集中44軒

人吉市は何軒が契約できたのだろうか？ 気になる。

(3)移住事例紹介

大分県豊後高田市でも、島根県飯南町でも成功例の移住事例が紹介されている。これも広報の1つであろう。

(4)移住・定住サポーター

島根県飯南町には4人の移住支援スタッフがいた。白杵にはサポーター

が何人いるのかは知らないがサポーターがいれば移住者には安心であろう。人吉市は移住・定住サポーターは何人いるのだろうか？

(5)新婚生活応援事業補助金

新婚世帯家賃補助金、新婚世帯住宅取得補助金も併用できる。

ただ私が知らないだけで、これなども全ての自治体にあるのかもしれない。

すでに定住している新婚世帯との公平性維持も大切だろう。

(6)有機農業支援

有機農業に関心のある若者も多いようだ。参考にしよう。

白杵市には市営の塾はないようだが、移住体験滞在施設「白杵おためしハウス」は研究・検討する価値があるだろう。

移住体験滞在施設「白杵おためし

ハウス」もお金がかかるはずである。どの地方自治体もお金が足りないようだが、白杵市（財政力指数0・39）もそのようだ。経常収支比率

92・3％と人吉市（100・8％）より良い。積立金現在高 87億円と人吉市（5億7000万円）よりも多いが、借入金（地方債）も257億円と非常に大きい（人吉市140億円）。老婆心ながら、将来世代の負担を心配する。

白杵市でもそうだが、収支財政難に苦しむ人吉市でも、お金は有効に使わないとますます足らなくなるだろう。民間の活力を利用すべきだろう。

松岡隼人市長さん、腕のみせどころですよ。

【きべ・あきひろ／人吉市】

せきれい 鶴 短歌会

三月詠草

人や国いがみ合つてする場合かと新型コロナウイルス天誅下すか

初雪に球磨の盆地は薄化粧四方の山肌モザイク模様

河内 徹夫

「クラスター」スリム化されし卒園式令和を担ふ児等にエールを

啓蟄に固き花芽の無花果は宙に向かひて春を待つがに

中村美喜子

八十路にて書齋に遊ぶを揶揄されど笑へば笑へ図書は安らぎ
誘はれし三十一文字は未知多く指折り数へ今日も歌詠む

西 武喜

車椅子押して歩いたこの道は三年過ぎても往時の花が
俯いてクリスマスローズ咲いている「ただ淋しいね」一人居の庭

釜田 操

飛び石のそばに咲いてる翁草一輪挿しに飾ればかりに
いつもより早く咲きたる木蓮の濃い紫色鮮やかに

三原 光代

感染に外出控へ連絡は常に手許にケイタイおいて
日常の夫との会話無くなりて時折りふっとひとりごとだけ

中原 康子

枯芝に膝の痛みを試しつつグランドゴルフ友と楽しむ
暖冬に冬眠忘れさくら花去年と変らず華麗に咲きて

橋詰 了一

吹き荒ぶ木枯らしに耐へ春を待つ古木の梅に白い花咲く
花のころ鬼籍に入りし若き妻桜見たび哀れさよぎる

守永 和久

赤ワインコップに注ぎ墓に供へ君亡き後の吾を語りき
春の水浅瀬に注ぎハヤの群れ陽に銀色の背を翻す

堀田 英雄

坂本の製紙工場小史補論

「資本の実現」

上村雄一

工場稼働にいたるまでの経緯を略述すると次のとおりである。

- ①明治28年12月1日 熊本市役所楼上に上羽勝衛、岡崎唯雄、藤村紫明、安場保和の4名会議
- ②明治29年5月22日 会社設立発起人会、農商務大臣に会社設立の免許許諾を申請
- ③同年6月19日 農商務大臣、会社設立を許可
- ③同年同日、会社設立総会（熊本市新町忘吾舎）開催。代表取締役社長に藤村紫明を指名、他の役員も選任。工場地を決定。
- ⑤同年11月1日 工場建設事務所を上松求麻村坂本に設置。地均工事開始

破産しているが、その原因は鉄道事業で投資を回収できる期間が長期にわたったことにあった。土地を購入し線路を敷き列車を走らせ乗客・貨物を運送し、それによって収益を生み出すまでの期間を耐えるのは容易ではなかった。製紙業も同様である。東肥製紙株式会社は土地の選択を含めてすべての作業を「第一步」から始めた。国営工場の「払い下げ」から事業をはじめた会社とは出発点がちがう。

商品は販売されなければならない。一回の販売では「前貸資本」の全額を回収できない。生産し商品を販売しつづ次の生産・販売をつづけて、ようやく「前貸資本」を回収できる。再生産のためには工場の機械などの維持・保守が不可欠で、原料の調達も不可欠である。経営者・労働者に対する「報酬・賃金」の支払いもつづく。一定期間の生産・販売が継続してはじめて、ようやく資本金100万円を回収できる。以上は当然のことのようにみえるかもしれないが、生産した製品の販売はそれほど容易ではない。製品に対する需要を絶対的・前提にするのはもちろんだが、競争者が存在するとき、製品の価格は市場で決定

- ⑥明治31年10月25日 工場開業披露会開催
- ⑦同年11月1日 営業稼働開始

上羽勝衛ほか3名の会議から工場の稼働まで3年弱の期間を要した。その期間は工場の建設時期で会社は収益をあげることはできない。それまでに集めた資本金（100万円）の大半は生産・販売するまでの資金（「前貸資本」として使用され、資本出資名（資本家）は工場が収益を上げるまで資金を「遊ばせて」おくことになった。別の用途に貨幣を利用できない点では「機会費用の損失」である。工場が稼働し、製品を製造するにいたっただけでは「前貸資本」を回収できない。製品を市場に出荷し、製品を購入する者が出現し、その者が代金を支払ったのちに、ようやく「前貸資本」は回収される。資本は、商品として販売されて、使用価値を有する商品として「実現」されなければ意味がない（実現論）。それまでは「利益を生まない出費」にとどまり資本家の経済力を低下させる。イギリスやアメリカの初期鉄道建設事業をみると、多くの資本家が鉄道事業への投資で

される。販売したい価格でなく、販売に至るまでに使用した貨幣量ではなく、価格は市場によって決定され、その価格で製品を販売せざるをえない。鉄道事業も同様である。馬車・舟運などによる運送費用が安価なとき、消費者は後者を選択し、前者は敗北し消滅せざるをえない。国家的需要があり、販売を国家が支えてくる場合を除けば、資本主義社会では市場の原理が作用し、経営者の意図するようには販売は進まない。購入者（消費者）は安価で良質の商品を求めるかぎり、市場の原理は必然的に作用する。

競走企業は国内に限定されない。「開国」によって市場は国際化していた。江戸時代の不平等条約の撤廃が国家的課題として意識されることにもなる。同時に、販売先も国内だけが視野に入るわけではない。国内市場・国際市場をにらみながら生産活動を実行していかなければならない。これもまた、当然のようにみえるが、経営は机上の作業ではなく、生存をかけた実務にはかならない。坂本工場の歴史をたどるとき、これらの経済の基礎知識がどうしても必要になる。そこで、補論として、「資本の実現」問題について整理しておくことにした。

記憶の落し穂

その ④8

絵と文／坂本福治



馬車の転落

戦後間もなく、シベリアから親戚の若者が帰って来た。庄吉と言ひ、二十五歳だった。何かにつけて行動的だった。庄吉は、村一番と言われる大型で仕事慣れた馬車馬を買い、馬車引きを始めた。主人が指図しなくとも、自分の家に間違いなく帰り、自分の小屋に入ると言われていた。水上村岩野のオゴ川の上流に「石舟」という所がある。聞いただけで、私は寒気がした。

私の高校時代だったと思う。かくも信頼のあつかった馬車が、丸太を積んだまま、谷に転落したのである。夕方になって、私も駆け付けた。丸太はバラバラに乱れ、馬は静かになっていた。見知らぬ男たちが数人集まり、馬の解体をしていた。年輩らしい一人の男が、臓器のひとつかたまりを、自分の袋の中に入れた。「狡い」と思った。その晩の食事は、初めての馬肉の鋤焼で、とてもうまかった。祖母は全く箸をつけなかった。それを知りながら、私は大いに食べた。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

【招待者】

記録によれば、東肥製紙株式会社は次の者たちを「披露会」に招待している。男爵松井敬之、県知事徳久恒範、大蔵省印刷局長得能通莚、同抄部長中村祐興、熊本市長辛島格、八代郡長、人吉郡長、各学校の校長、付近の町村長、水利組合員、各御用達。総数は数百人であった。細川侯爵家、相良子爵家を除けば、熊本県南部の有力者のほとんどを招待しただけでなく、印刷局の幹部を招待している。印刷局の技師であつた安場末喜、末喜が連れてきた印刷局の技師たちを考えれば不自然とはいえない。いずれにしても大規模な「祝賀会」にした。

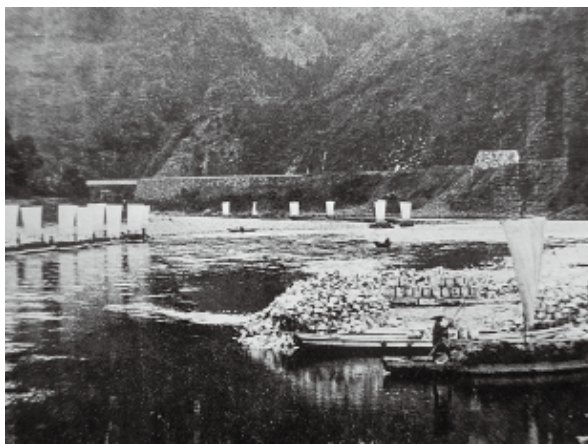
当時、鉄道は開通してなく、上流地域、下流地域からの祝賀会の参加者は舟を利用して会場（工場）に向かった。下流地域の参加者は旧八代駅近くの八代出張所に

メモ「工場開業披露会」

営業稼働開始直前の「工場開業披露会」を紹介する。3年弱の間待ちに待った工場の稼働である。当事者（特に、資本家）の「喜び（歓喜）」を容易に想像できる。

集まり、近くの瓢箪淵から、「会社舟」を利用した。朝食は「握り飯」で工場が用意した。工場建設工事前に球磨川で利用されていた川舟は小さいと判断し、新たに川尻で「会社舟」を造ったのであつた。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】



会社船。古麻木などを八代から工場地近くの鮎帰川河口の糖尻まで運んだ。写真は糖尻から会社船を写したものだ

お休みどころ通信 ⑭

ギャンブル障害について話す

精神科医 興野康也

ギャンブルに依存してしまっている状態を、精神科の病名としては「ギャンブル障害」と呼びます。世界的に人口の1.5〜2.5%程度と推定されているそうで、よくみられる精神疾患になります。患者さんのなかにはギャンブルに依存する方も一部おられますので、ある程度関心は持っていました。

大きく関心を持ったのは4年前のことです。人吉市の隣の錦町で、「場外舟券売り場」ができる構想が持ち上がったとのことで、反対する郡市民グループができました。代表をされていたRさんと僕は、たまたま難病支援の

活動で知り合いましたので、Rさんからの講演依頼を引き受けたのです。ですが人前で話すためには勉強したり、いままでの経験をまとめたりしないといけない。はたしてうまくいくのかハラハラしながら資料を作ったのを覚えています。結果的には講演は盛り上がり、質問もたくさん出てホッとしたのでした。その後「場外舟券売り場」の構想も凍結されました。

その後ギャンブル問題の講演をすることはなかったのですが、去年の12月、友人の鶴上寛治さんから講演の依頼を受けたのです。なんと今度は人吉

市で「場外車券売り場」の構想が持ち上がっているというのです。僕も知らなかったのですが、これは遠方で開かれている競輪やオートレースをスクリーンに映し出して、お金を賭けるための施設なのだそうです。

当日会場に行ってみると、続々と人が集まってきます。80人くらいは来てくださった感じがした。会場の雰囲気を見た段階で、「おそらくギャンブル場の構想は消えるだろう」とわかりました。そんな静かな活気があったのです。

講演は参加者が熱心に聞いてくださったこともあり、いろいろプラスアルファの内容をお話して、時間が足りませんでした。質問も出ました。

①ギャンブル場を減らせば、ギャンブルをする人が減るのか？（↓これは深い質問ですが、ギャンブル場について

はおおむね30km圏内からの利用者が多いというデータがあるそうです。また依存症対策の基本は対象へのアクセスの軽減です。

②公的な金銭管理システムについて。成年後見制度のなかで支援信託の応用として地域の金融機関と連携する方法があるのでは？（↓これは僕は知

りませんでした。あとで司法書士の方に教えていただきました。

③吉田病院でギャンブル依存の治療プログラムを始める予定はありますか？（↓現時点では予算や人員のことなどがあり、まだ構想はありません。ただ以前にはギャンブル障害の自助グループをしていた時期があったそうです。）

④統合型リゾートなどの公営ギャンブルを国が進めているのはなぜなのでしょう？ 経済界優先のため？（↓おそらくそうだと思います。）

⑤ギャンブル場への入場券のようなものはできないか？（↓国が決めればすぐできると思います。これがあればギャンブル障害の人の入場禁止なども行えます。海外ではできているところもあると聞いています。）

ギャンブルをはじめとする依存症の問題は、医療機関だけの支援には限界

があり、社会システムからのアプローチがとても重要になります。また、ただ単に社会的に締め付けるだけでは成功せず、禁酒法時代のアメリカで依存症者が増えてギャンギがはびこったり、アルコール禁止のイスラム圏で深刻な依存症者が出ていることと同じようなことになってしまいます。柔軟な発想で、社会的な規制の在り方や依存症者支援の在り方を考えていく必要があるのです。

依存症支援は古くて新しい精神科の分野です。僕は専門的に診療しているわけではありませんが、悩んでいる当事者や家族は地域にたくさんおられます。僕に関われるのは主に、子どものゲーム依存の支援や、成人の発達症の人の金銭管理の問題などに限られますが、依存症支援に少しでも参加していきたいと思っています。

【おきの・やすなり／人吉市】



2月18日に開催された講演会のチラシ

倉敷便り

39

絵と文／原田 正史

庄屋屋敷

私の住む帯高は、倉敷市中心部の美観地区や商業地区、あるいは海岸沿いを除いて、田園の中に住宅が散在するといった風景が広がります。そのような風景の中を散策したら、格別に大きな屋敷に行き当たりました。一〇〇m四方ほどの敷地に道路から車が自由に出入り出来る前庭があり、その前に大きな和風と洋風の建物が直線上に並んでいます。それぞれの建物の背後には和風と洋風の庭園が設けられていました。

この大きな屋敷について、倉敷の事

情についての指南役である西田の小原氏にお聞きしたら、江戸時代に庄屋だった人の子孫の屋敷ではないかとの事でした。以前は、このような古い屋敷が立ち腐れの状態で放置されていたそうです。「その後、屋敷跡には手が入り、十数軒の新しい住宅が建ち並ぶ光景が見られました」と、懐かしむように話されました。

私の住む帯高にも、私の家から北側に一〇〇mほどの所と、南側に五〇〇mほどの所の二ヶ所に、江戸時代に庄屋だったと思われる大きな屋敷が存在します。北側の屋敷は保存状態が良く、建造当時の様子をそのまま残しています。しかし南側の

屋敷では改造がくり返されていて保存状態は良くありません。しかし建造当時の部分もあつて大変参考になります。

北側の屋敷は、縦横約一〇〇mの直行する白壁塀に囲まれて孤立して存在します。西側は幅一〇mほどの灌漑用の水路に接していて、水路の両岸は花崗岩の切石によって護岸されています。その上に同じ花崗岩の基礎が置かれ、そこを白壁塀が走っているのです。北側と南側は枯木が点在する広い草地であり、北側には通用門があつて、その前に大型の乗用車が無造作に置かれていました。東側は田んぼであり、白壁塀沿いに一人一人がやっと通れるほどの小道が直線上に走っています。白壁塀の中央部には正面、すなわち大きな冠

木門が突っ立ち、その左側には通常使用する通用門が設けられていました。ところが、通常の大きさの通用門であつたとしても、外部へ通じる小

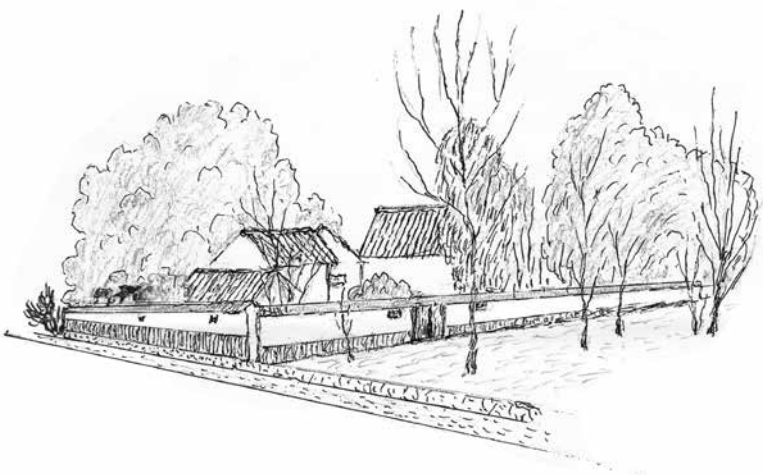
道はあまりにも細すぎます。恐らく建築当時には、正門に似合う広い道路が走っていたものと思われれます。その後、何代目かの当主が広い道路は勿体ないと思い、田んぼに取り込んで収穫量を増加させたのでしょう。

全長およそ四〇〇mに達すると思われる屋敷を方形に区画する白壁塀は、上部に棟瓦が載せられ、白壁の下半分は風雨を防ぐための焼き杉板で覆われて、花崗岩の礎石の上に立っています。また、所々に屋敷内から外部の様子を窺うことが出来る覗き窓も設けられ、南側の白壁塀の西側には通用門が造られています。覗き窓の位置から白壁塀の高さが、人の背丈を越えていることが分かります。

屋敷の内外に散在する枯木群はすべて広葉樹で、野放しの状態で放置されたらしく、縦にも横にも広がり

を見せて繁茂しており、通常の家屋では見られない独特の風情を感じさせます。

屋敷内に数多く存在する建物の中で、母屋と思われる建物の前には、和風の庭園が造成されていて、松などの良く剪定された針葉樹の存在が垣間見られます。用水路そばには、枯木の横に二棟の土蔵が存在しますが、表面に塗られていた漆喰は、その殆どが剥げ落ち、赤土がむき出しになっています。その哀れな様子がらすれば、現在は使用されていないのだと思われれます。この屋敷の所有だと思われる田んぼには、大型のプレハブが立ち並び、その中で何か栽培されているようです。プレハブの中には役目を終えた土蔵に代わって仕事をする倉庫用のものがあるに違いないでしょう。屋敷を取り巻く現実の中



帯高 北大屋敷 (2020.3)

漢和字典は面白い

32

鶴上寛治

浅

音はセン、意味は「浅い」。賤（賤）・箋・踐・餞・残・銭などの旁に使われている「浅セン・サ」は①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㏀㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂㡃㡄㡅㡆㡇㡈㡉㡊㡋㡌㡍㡎㡏㡐㡑㡒㡓㡔㡕㡖㡗㡘㡙㡚㡛㡜㡝㡞㡟㡠㡡㡢㡣㡤㡥㡦㡧㡨㡩㡪㡫㡬㡭㡮㡯㡰㡱㡲㡳㡴㡵㡶㡷㡸㡹㡺㡻㡼㡽㡾㡿㢀㢁㢂㢃㢄㢅㢆㢇㢈㢉㢊㢋㢌㢍㢎㢏㢐㢑㢒㢓㢔㢕㢖㢗㢘㢙㢚㢛㢜㢝㢞㢟㢠㢡㢢㢣㢤㢥㢦㢧㢨㢩㢪㢫㢬㢭㢮㢯㢰㢱㢲㢳㢴㢵㢶㢷㢸㢹㢺㢻㢼㢽㢾㢿㣀㣁㣂㣃㣄㣅㣆㣇㣈㣉㣊㣋㣌㣍㣎㣏㣐㣑㣒㣓㣔㣕㣖㣗㣘㣙㣚㣛㣜㣝㣞㣟㣠㣡㣢㣣㣤㣥㣦㣧㣨㣩㣪㣫㣬㣭㣮㣯㣰㣱㣲㣳㣴㣵㣶㣷㣸㣹㣺㣻㣼㣽㣾㣿㤀㤁㤂㤃㤄㤅㤆㤇㤈㤉㤊㤋㤌㤍㤎㤏㤐㤑㤒㤓㤔㤕㤖㤗㤘㤙㤚㤛㤜㤝㤞㤟㤠㤡㤢㤣㤤㤥㤦㤧㤨㤩㤪㤫㤬㤭㤮㤯㤰㤱㤲㤳㤴㤵㤶㤷㤸㤹㤺㤻㤼㤽㤾㤿㥀㥁㥂㥃㥄㥅㥆㥇㥈㥉㥊㥋㥌㥍㥎㥏㥐㥑㥒㥓㥔㥕㥖㥗㥘㥙㥚㥛㥜㥝㥞㥟㥠㥡㥢㥣㥤㥥㥦㥧㥨㥩㥪㥫㥬㥭㥮㥯㥰㥱㥲㥳㥴㥵㥶㥷㥸㥹㥺㥻㥼㥽㥾㥿㦀㦁㦂㦃㦄㦅㦆㦇㦈㦉㦊㦋㦌㦍㦎㦏㦐㦑㦒㦓㦔㦕㦖㦗㦘㦙㦚㦛㦜㦝㦞㦟㦠㦡㦢㦣㦤㦥㦦㦧㦨㦩㦪㦫㦬㦭㦮㦯㦰㦱㦲㦳㦴㦵㦶㦷㦸㦹㦺㦻㦼㦽㦾㦿㧀㧁㧂㧃㧄㧅㧆㧇㧈㧉㧊㧋㧌㧍㧎㧏㧐㧑㧒㧓㧔㧕㧖㧗㧘㧙㧚㧛㧜㧝㧞㧟㧠㧡㧢㧣㧤㧥㧦㧧㧨㧩㧪㧫㧬㧭㧮㧯㧰㧱㧲㧳㧴㧵㧶㧷㧸㧹㧺㧻㧼㧽㧾㧿㨀㨁㨂㨃㨄㨅㨆㨇㨈㨉㨊㨋㨌㨍㨎㨏㨐㨑㨒㨓㨔㨕㨖㨗㨘㨙㨚㨛㨜㨝㨞㨟㨠㨡㨢㨣㨤㨥㨦㨧㨨㨩㨪㨫㨬㨭㨮㨯㨰㨱㨲㨳㨴㨵㨶㨷㨸㨹㨺㨻㨼㨽㨾㨿㩀㩁㩂㩃㩄㩅㩆㩇㩈㩉㩊㩋㩌㩍㩎㩏㩐㩑㩒㩓㩔㩕㩖㩗㩘㩙㩚㩛㩜㩝㩞㩟㩠㩡㩢㩣㩤㩥㩦㩧㩨㩩㩪㩫㩬㩭㩮㩯㩰㩱㩲㩳㩴㩵㩶㩷㩸㩹㩺㩻㩼㩽㩾㩿㪀㪁㪂㪃㪄㪅㪆㪇㪈㪉㪊㪋㪌㪍㪎㪏㪐㪑㪒㪓㪔㪕㪖㪗㪘㪙㪚㪛㪜㪝㪞㪟㪠㪡㪢㪣㪤㪥㪦㪧㪨㪩㪪㪫㪬㪭㪮㪯㪰㪱㪲㪳㪴㪵㪶㪷㪸㪹㪺㪻㪼㪽㪾㪿㫀㫁㫂㫃㫄㫅㫆㫇㫈㫉㫊㫋㫌㫍㫎㫏㫐㫑㫒㫓㫔㫕㫖㫗㫘㫙㫚㫛㫜㫝㫞㫟㫠㫡㫢㫣㫤㫥㫦㫧㫨㫩㫪㫫㫬㫭㫮㫯㫰㫱㫲㫳㫴㫵㫶㫷㫸㫹㫺㫻㫼㫽㫾㫿㬀㬁㬂㬃㬄㬅㬆㬇㬈㬉㬊㬋㬌㬍㬎㬏㬐㬑㬒㬓㬔㬕㬖㬗㬘㬙㬚㬛㬜㬝㬞㬟㬠㬡㬢㬣㬤㬥㬦㬧㬨㬩㬪㬫㬬㬭㬮㬯㬰㬱㬲㬳㬴㬵㬶㬷㬸㬹㬺㬻㬼㬽㬾㬿㭀㭁㭂㭃㭄㭅㭆㭇㭈㭉㭊㭋㭌㭍㭎㭏㭐㭑㭒㭓㭔㭕㭖㭗㭘㭙㭚㭛㭜㭝㭞㭟㭠㭡㭢㭣㭤㭥㭦㭧㭨㭩㭪㭫㭬㭭㭮㭯㭰㭱㭲㭳㭴㭵㭶㭷㭸㭹㭺㭻㭼㭽㭾㭿㮀㮁㮂㮃㮄㮅㮆㮇㮈㮉㮊㮋㮌㮍㮎㮏㮐㮑㮒㮓㮔㮕㮖㮗㮘㮙㮚㮛㮜㮝㮞㮟㮠㮡㮢㮣㮤㮥㮦㮧㮨㮩㮪㮫㮬㮭㮮㮯㮰㮱㮲㮳㮴㮵㮶㮷㮸㮹㮺㮻㮼㮽㮾㮿㯀㯁㯂㯃㯄㯅㯆㯇㯈㯉㯊㯋㯌㯍㯎㯏㯐㯑㯒㯓㯔㯕㯖㯗㯘㯙㯚㯛㯜㯝㯞㯟㯠㯡㯢㯣㯤㯥㯦㯧㯨㯩㯪㯫㯬㯭㯮㯯㯰㯱㯲㯳㯴㯵㯶㯷㯸㯹㯺㯻㯼㯽㯾㯿㰀㰁㰂㰃㰄㰅㰆㰇㰈㰉㰊㰋㰌㰍㰎㰏㰐㰑㰒㰓㰔㰕㰖㰗㰘㰙㰚㰛㰜㰝㰞㰟㰠㰡㰢㰣㰤㰥㰦㰧㰨㰩㰪㰫㰬㰭㰮㰯㰰㰱㰲㰳㰴㰵㰶㰷㰸㰹㰺㰻㰼㰽㰾㰿㱀㱁㱂㱃㱄㱅㱆㱇㱈㱉㱊㱋㱌㱍㱎㱏㱐㱑㱒㱓㱔㱕㱖㱗㱘㱙㱚㱛㱜㱝㱞㱟㱠㱡㱢㱣㱤㱥㱦㱧㱨㱩㱪㱫㱬㱭㱮㱯㱰㱱㱲㱳㱴㱵㱶㱷㱸㱹㱺㱻㱼㱽㱾㱿㲀㲁㲂㲃㲄㲅㲆㲇㲈㲉㲊㲋㲌㲍㲎㲏㲐㲑㲒㲓㲔㲕㲖㲗㲘㲙㲚㲛㲜㲝㲞㲟㲠㲡㲢㲣㲤㲥㲦㲧㲨㲩㲪㲫㲬㲭㲮㲯㲰㲱㲲㲳㲴㲵㲶㲷㲸㲹㲺㲻㲼㲽㲾㲿㳀㳁㳂㳃㳄㳅㳆㳇㳈㳉㳊㳋㳌㳍㳎㳏㳐㳑㳒㳓㳔㳕㳖㳗㳘㳙㳚㳛㳜㳝㳞㳟㳠㳡㳢㳣㳤㳥㳦㳧㳨㳩㳪㳫㳬㳭㳮㳯㳰㳱㳲㳳㳴㳵㳶㳷㳸㳹㳺㳻㳼㳽㳾㳿㴀㴁㴂㴃㴄㴅㴆㴇㴈㴉㴊㴋㴌㴍㴎㴏㴐㴑㴒㴓㴔㴕㴖㴗㴘㴙㴚㴛㴜㴝㴞㴟㴠㴡㴢㴣㴤㴥㴦㴧㴨㴩㴪㴫㴬㴭㴮㴯㴰㴱㴲㴳㴴㴵㴶㴷㴸㴹㴺㴻㴼㴽㴾㴿㵀㵁㵂㵃㵄㵅㵆㵇㵈㵉㵊㵋㵌㵍㵎㵏㵐㵑㵒㵓㵔㵕㵖㵗㵘㵙㵚㵛㵜㵝㵞㵟㵠㵡㵢㵣㵤㵥㵦㵧㵨㵩㵪㵫㵬㵭㵮㵯㵰㵱㵲㵳㵴㵵㵶㵷㵸㵹㵺㵻㵼㵽㵾㵿㶀㶁㶂㶃㶄㶅㶆㶇㶈㶉㶊㶋㶌㶍㶎㶏㶐㶑㶒㶓㶔㶕㶖㶗㶘㶙㶚㶛㶜㶝㶞㶟㶠㶡㶢㶣㶤㶥㶦㶧㶨㶩㶪㶫㶬㶭㶮㶯㶰㶱㶲㶳㶴㶵㶶㶷㶸㶹㶺㶻㶼㶽㶾㶿㷀㷁㷂㷃㷄㷅㷆㷇㷈㷉㷊㷋㷌㷍㷎㷏㷐㷑㷒㷓㷔㷕㷖㷗㷘㷙㷚㷛㷜㷝㷞㷟㷠㷡㷢㷣㷤㷥㷦㷧㷨㷩㷪㷫㷬㷭㷮㷯㷰㷱㷲㷳㷴㷵㷶㷷㷸㷹㷺㷻㷼㷽㷾㷿㸀㸁㸂㸃㸄㸅㸆㸇㸈㸉㸊㸋㸌㸍㸎㸏㸐㸑㸒㸓㸔㸕㸖㸗㸘㸙㸚㸛㸜㸝㸞㸟㸠㸡㸢㸣㸤㸥㸦㸧㸨㸩㸪㸫㸬㸭㸮㸯㸰㸱㸲㸳㸴㸵㸶㸷㸸㸹㸺㸻㸼㸽㸾㸿㹀㹁㹂㹃㹄㹅㹆㹇㹈㹉㹊㹋㹌㹍㹎㹏㹐㹑㹒㹓㹔㹕㹖㹗㹘㹙㹚㹛㹜㹝㹞㹟㹠㹡㹢㹣㹤㹥㹦㹧㹨㹩㹪㹫㹬㹭㹮㹯㹰㹱㹲㹳㹴㹵㹶㹷㹸㹹㹺㹻㹼㹽㹾㹿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿

字形は「戈」を重ねて切り込み、ずたずたにする「ダ」処理だな。「はなむけ」は「旅の二歩を踏み出す」意で、旅立ちの折、先だつて道祖神をまつり、宴をして送るときに食物が「餞（はなむけ）」である。馬の鼻を旅先の方角に向ける儀式をしていたのだらう。今の旅は安全だ。何も餞別を渡して安全を祈るほどのことはない。

憂

憂鬱・憂愁・杞憂・憂慮、「憂」は「うれい」。好い精神状態ではない。人が憂えると「優（へす）くれる・優しい」と大変身。優美・優雅・優等・優秀、果ては優勝！ 賞状・トロフィー・優勝旗、ときには賞金まで…。古代ギリシアのオリンピックでは、月桂冠だけ？ もちろん名誉は残る。四年に一回のこの時だけは、ポリス間の戦争も一時中止。今のオリンピックは、国家の威信・経済的利益がガラガラ。初心に帰り、もつと「平和への灯」にすべきではないか？ 俳優の「優」は「大きな仮面を付けて舞う人」わざおぎで、神に捧げるものだったが、今は？

【つるかみ・かんじ／人吉市】



帯高 南大屋敷 (2020.3)

西約八〇mの敷地面積を有していると思われまふ。その中で昔の姿を残しているのは、倉敷の建物の特徴の一つである焼き杉を使用した大きな南側の長屋造りと、これに続く東側の正門です。長屋造りの中央部には、頑丈な構造の長屋門が存在します。門の基部には柱の礎石をはじめ、重厚な花崗岩の切石がふんだんに使われていて、その威容は城門そのものと言えるでしょう。正門は独立した建物であり、通用門を伴い、基部は長屋門同様に花崗岩の切石造りであり、正門から前方の道路まで続く長い通路もすべて花崗岩の切石によって舗装された贅沢なものとなっています。正門に続く東側の建物は、西北端に残されている大きな土蔵を除いて、すべて新しく造られた建物や塀などであり、建

物と建物の間にあって、内部は広い作業場になっている所もあります。北側の屋敷に比べて樹木が少なく、内部は大きな建物だらけという感じがします。南西端に庭園樹が見られることから、母屋はこの付近にあるものと思われまふ。北西部には、小さな新しい住宅が入り込んで何軒も建てられていて、屋敷との境界が明確になっていません。これは当主からの兄弟姉妹などへの財産分与の結果だろうと思われまふ。当主としては先祖伝来の屋敷をそのまま残したい気持ちはあるにしても、そうはさせない現世の哀れさが漂っています。まさに諸行無常と言ったところです。

【はらだ・まさふみ／日本地質学会会員、倉敷市】

生誕450年
記き下ろし

小説・相良清兵衛

28

山口啓二

休矣は宗芳との話が終わると館を後にし、その足で城のすぐ下の延命寺へと向かった。

「これはこれは休矣殿、お久しゅうござりまする。さては軍七殿の事でござるかな」

「和尚、ご無沙汰して申し訳ござらぬ。されば、こうも戦が続きますればご挨拶もままなりませぬ。倅は先日來八代に連れて参りましたが、戦は起きず帰りました。軍七も是から先はお家のために働いて貰わねばなりません。暫くわが元で預かりますゆえ、この次の戦が倅のまさに初陣となります事かと」

「左様でござりましたか。いや倅殿は立派に成長なされました。先日御家老様が尋ねられ、行く先は摂津介殿の良き片腕となる由、話されて行かれましたぞ」

「さてさてそれは如何なものか、まだ実践が伴ってございませぬ。今はただ斬り合うだけではなく、どこから飛び道具が来るやもしれませぬ。上手く生き延びてくれることを祈るの

するうえ、もとより拙僧のほうが楽しゅうございました。いつかはこの日が来るとは申せ、別れるのは何とも辛うございまする」

「いや、まだまだ教えを請うことがございますゆえ、ぜひともお納めいただきます」

「左様でございまするか。また会える機会がございますれば遠慮なく戴きましようぞ。かたじけのうござる。南無釈迦牟尼仏、ありがたいことじゃ。そう言えば休矣殿、最近倅殿は摂津介殿との御立ち会いの折に、変わった剣の使い方をなさいまするが、あれは確か昔丸目殿が使われておった技に似ておりましたなあ」

「何と言われた、丸目蔵人佐殿が帰ってみえられたと申されるので」

「いや、それが習われたのはどうも先ごろ薩摩から戻られた菱刈源兵衛殿のよう。さすれば薩摩で丸目殿が菱刈殿へ伝授されたのやも」

「ほう。薩摩では最近野太刀を元にした示現流なる剣法があるやに聞

【前回までのあらすじ】「流罪」という裁きを受けた清兵衛は、弘前藩津軽家へお預けの身となっていた。弘前藩主・信義公は昔話をしきりに聞いてきて、五十年以上も前の朝鮮出陣の話や島津軍との争いの話にも及んでいた。

みかと

「愚僧もかねがね御仏にお祈りをいたしておりますが、なかなかうまく伝わってくれませぬ。この年になってもまだ修行が足らんのでしょうか。あははは」

「何を仰せられますか。ときに倅は今日は」

「はい、今朝は早くから先ほどまで、摂津介殿と剣の稽古をされておられましたので、木山の湧き水でも浴びておられるやも。おつけ昼となりましたようから軽く召し上がって行かれませぬか。なんの、いつもの事ながら馳走などはできませんが」「これはかたじけない。それと、これは少のうはございますが、倅のこれまでのお礼でございます」

「何を仰せられますか。すでに過分のご寄進を戴いております

いております。なにやら陰流をさらに進化させた新陰流が元だとか。丸目殿はその新陰流の奥義を極められておられる。若くしてあのような災難に遭われなければ、今頃は藩の剣術指南役でござつたのに」

「さればですのう。大口砦上の戦の折にもの見事に薩摩の『釣り野伏せ』なる戦術にかかりおつて。島津家久公の仕掛けた兵糧の荷車を内田伝右衛門殿と共に奪い獲ろうとして、そこに待ち構えた島津軍に容易く打ちのめされましたのでしたなあ。小田八郎右衛門の制止に従っておればああいう失態は起きなんでものを。あの時身内の者たちがどれだけ亡くなつたやら。お陰で所有しておった大口や菱刈まで手放すことになり申した。しかし、あの時からすでに十五年以上も過ぎました。たしか内田殿をはじめほかの方々はすでにお許しを頂いていたかと」

「はあ、丸目殿はそのあと修行に出られ、球磨の地をずいぶんと長く離れておいでです。先君も丸目殿がこの地に居られたならその儀もあつたでしょうが、遂にはお亡くなりになつてすでに二人の殿が代わられましたのでなあ」

「左様ですなあ。剣に関しては拙僧全く無縁ゆえ詳しくは申せませぬが、何やら地面から上へ向け『逆さ袈裟切り』とか申されておった様で。まさに鎧の急所を狙った技でござつ

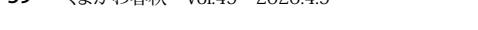
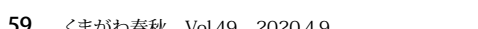
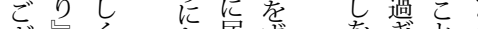
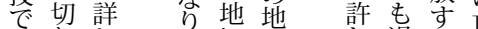
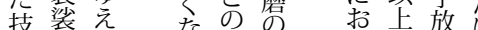
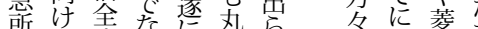
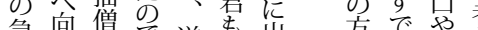
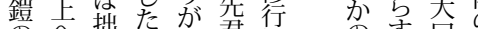
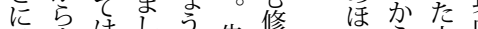
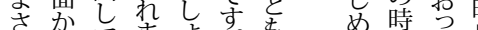
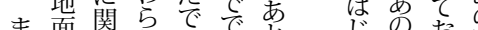
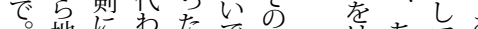
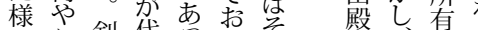
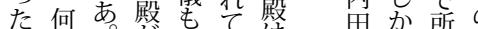
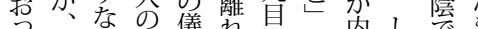
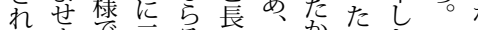
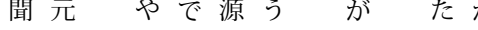
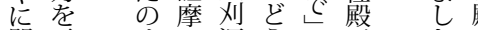
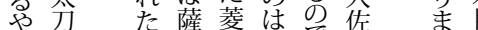
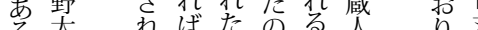
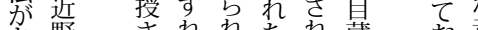
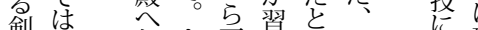
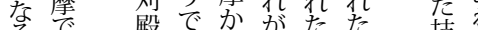
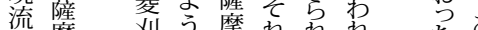
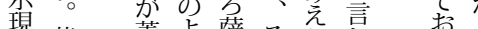
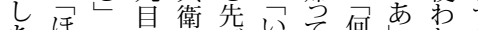
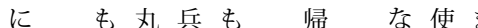
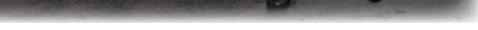
■主な登場人物

相良清兵衛（軍七・頼兄）＝相良家 元家老

犬童休矣＝相良氏の家臣

深水宗芳＝相良氏の家老

新納忠元＝島津氏の家臣



た。あれは間違いなく丸目殿の指南かと」

「では示現流の基になったのは丸目殿の新陰流か。そう言えば丸目殿は新陰流をさらに進化させて新たな剣法を編み出されたように聞き及んだことがあるが。さて、今はどこに居られる事やら」

「父上、おいででございましたか。今日は朝から摂津介様に劍の稽古をつけて貰っております」

「おお、摂津介殿、かたじけのないござる。して、倅の劍の腕は少しは上達いたしましたか」

「はい休矣殿、先日八代から帰った折、私も軍七とともに菱刈殿より形だけを習ったのですが、今では三本のうち一本はやられている始末です。何とも未恐ろしゅうございます」

「摂津介殿、ときにその剣法は何と申されておりましたか」

「はい、菱刈殿が『タイ捨流』とか申されておりました。なんでも、元相良家の家臣であられたお方の剣法だとか」

「やはり、丸目殿は今薩摩に居られるのだな。軍七が生まれた頃に球磨を去られたお方だ」

「いや休矣殿、その丸目殿は今確か肥前や平戸松浦で教えられていると聞き及びましたが」

「そうでしたか。父上、そんなお方がなぜ球磨をお離れになったのでしょうか」

をしていた。中間の徳右衛門が、

「若、震えが止まりませぬようですな。暫く刀を振ってお気を鎮めなさい」

「おう、どうも身震いがしてなんのだが、なるほど素振りで暖まるか」

徳右衛門に諭され、軍七は太刀を抜くと力強く素振りを始めた。

ほぼ全員の手勢が所定の位置に着いたことを目視した新納忠元は休矣に目配せをすると、それを合図に城の正面の民家に火矢を放った。すでに村人は朝早くに逃げ出しており、北風に煽られた藁葺きの家々はすぐに燃え上がった。休矣のすぐそばにいた家人の徳右衛門とその息子弥兵衛は常に軍七の動きを見守っていた。炎はみるみる高く上がり、城の前の家々は白い煙を上げはじめそろそろ燃え尽きようとしていた。兵は刀を握りしめ槍を構えて体を丸めながらゆっくり歩くが、かなり意気込んでいた軍七はその隊の数歩前に出た。

「若、油断はなりませぬぞ。いつ敵が攻めて来るやもしれませぬ」

すでに数えて十七歳の軍七だが犬童家の中間・徳右衛門からみるとまだまだ子供であった。そう言ったが早いか、少しばかり前の家の裏から急に矢が撃たれた。矢は音を放って軍七

軍七はこの丸目蔵人佐について興味を持って口をはさんだ。「それについてはおいおい聞かせるよって、そろそろ昼時じや、支度をして参れ」

「かしこまりました。ではしばしお待ちくださいませ」

遂にその日が来た。島津軍の最初の攻撃目標は隈本のほぼ中央に位置する隈庄城に決まった。

この城の城主は甲斐親教、親秀の従兄に当たる。東西南北に開けた土地で、誠に攻め難い城の造りになっていた。早朝より宇土の名和氏、天草の天草氏に志岐氏と、援軍があちこちから集結した。先鋒は新納忠元の願いにより案の定相良軍が、そして軍七の父である犬童頼安改め『休矣』が陣頭指揮を執る事に決まった。島津軍が今まで敵として戦って来た武将の中でも一番の策士であるというのがその理由であった。

犬童軍七は十七歳になっており、三年前に水俣で初陣は果たしていたが、抜刀して敵と戦うのはこれが初めてであった。恐怖が襲ってびっしり冷や汗をかいていた。

軍七は腰の刀のほか別に二本の太刀を背中に担いでいた。当時としては当たり前であった。

旧暦の閏八月十一日とはいえ現在の暦では十月、すでに肌寒い朝だった。軍七は真の初陣とこの気候で何度も武者震い

の耳の辺りをかすめた。その矢は明らかに軍七を狙っていたのだ。そのあとも次々と矢が放たれたが相良軍は深追いはしなかった。休矣の合図により全員が一斉に撤退したのだ。それに釣られ敵はすぐに相良軍を追った。相良軍が撤退するや否や、島津の弓と鉄砲が相良軍が逃げ込んだその両側の茂みから隈庄の軍に狙いを定めていたのだ。見事に『釣り野伏せ』が成果を上げた瞬間であった。あつという間の出来事だった。

敵軍はあとからあとから城を出て攻撃して来た。軍七はすぐ横に深水摂津介の姿を見つけた。

摂津介は筆頭家老深水宗芳の嫡男で、将来家老職を約束された、軍七が一番信頼している若武者である。軍七は子供の頃から劍の指導や易学などを教えて貰っていた。

「摂津介様、やはり怖いです。どうかお傍においてください」

「軍七、俺のあとについて参れ」

刀を握りしめた軍七は摂津介のあとを追った。するとすぐ横から敵兵が軍七めがけて斬り込んで来た。それをかわすにすかさず反撃に出た。かなりの大男で刀を振り払われようとした。幾度か刀を合わせると軍七は敵の足元から斜め上に斬り裂いた。傍には徳右衛門とその息子弥兵衛の姿が見えた。敵の股の辺りから鮮血がほとばしった。が、敵兵の傷は浅いとみられ、押し返されて形勢は軍七が不利にみえた。そこへ徳

右衛門が背後から敵兵に斬りかかった。とても初老の人とは思えぬ剣捌きであった。

「若、今でござんる」

軍七は敵の脳天をこれでもかと斬りつけた。すると敵はそこにはつたりと崩れ落ちた。

弥兵衛が叫んだ。

「若、早く首をつ！」

それに諭され敵兵に馬乗りになった軍七は、動かなくなつた相手の兜を押さえ、右手に持った小手差しで敵の首を斬り落とした。生涯初めて人の命を奪つたのだ。興奮が覚めずのあとは何が何やらわからぬまま数人の足軽を斬つた。戦いはほどなく終わった。軍七が仕留めた敵武将の首は徳右衛門の息子弥兵衛が手に提げていた。城門の辺りにいた摂津介が近付いて来た。

「軍七、よくぞ敵武将の首を射止めたな。初陣でこの活躍さすがじゃ」

「はい、徳右衛門と弥兵衛のお陰でようやく初陣を果たすことが出来ました。はあ、はあ、まだ息が上がっております。摂津介様も過分なるご活躍と聞き及びましたが」

相良軍は数名の犠牲者を出したが、甲斐との初戦は相良島津軍の大勝利となった。敵将の甲斐親教の首も捕つた。

休矣は深水宗芳と向かい合つて腰をおろしていた。

「とりあえずは先君の敵が討てましたな。さてこれから阿蘇高森を攻めねばなりません」

「とりあえず、はな。そう言えは倅殿が敵武将の首を獲つたとか。いやあめでたい。相手はかなりの使い手であつたらしいが、よく戦われたものだ」

「はい、徳右衛門と弥兵衛のおかげにございます。摂津介殿も随分なお活躍だつた由、御目出とうございます」

「いや、軍七殿はこの度が真の初陣、それも相手はかなりの腕前だつたやに。誠にもつてこの先が楽しみなことじゃなあ」

首検分を終えしばらく休んでいると、川の向こうにまだ敵兵がかなりの数いる模様だつた。島津の陣営から戻つて来た宗芳はこのまま撤退すると皆に伝えた。摂津介はすぐ問い糾した。

「父上、すぐ先に敵が見えるのにここで後退するのですか」

「ああ、島津は夜襲はしないのださうだ。もう日暮れも近い。さすれば要らぬ犠牲を出さなくて済むとお考えだ。また今夜軍議を開いての事となる」

摂津介は島津の従いに応じるしかなかった。軍はそのまま小川までとつて返した。

翌朝早くに軍議と称して島津の陣営に宗芳と休矣が呼ばれ、川田駿河に籤を引かせた。この男は義久公にかなり寵愛されており、彼の籤の確率はかなりのものであつた。すると答えは数日間攻撃は『凶』と出た。伊集院忠棟は、

「そっか、お主の籤は外れることがないゆえ従うしかあるまいか。さて如何したものよろう」

それを聞いて新納忠元が発した。

「今から昨日墮とした隈庄の様子を見に行き、そのまま甲佐や堅志田に探りを入れましようぞ」

暫く協議をしたが、その後島津忠平の一言で決着がついた。

「いや、やはり駿河の賭けに従おう。数日間は戦いを控え、そののちまた籤で決めるぞ」

そう言うつと席を立ち、これで軍議は終了したかに思えた。忠平が部屋を出ようとするのと走つて来た近習がぶつかりそうになつて大声で叫んだ。

「大変にございます。宮原に待機させておいた我が軍の若い者たちがそのまま甲佐を攻めた様子にございます」

「何と、先走りおつて。で、戦況は入つてきておるか」

「はい、さすれば我が島津の秘策『釣り野伏せ』を試したようで、敵はまんまと騙されたそうにございます」

「そっかそっか、深水殿、犬童殿、相良には通用せずとも、

この秘法はまだ隈本には知られておらなんだな。して戦果は」

「敵の首およそ五百、我が軍数名の死者とけが人、まったくもつて怪我の功名にございます」

「ほう。皆の者、お聞き召されたか。若い衆がやりおつたわ。島津はこれからも安泰であるのお。わっはっは」

座の中にいた筆頭家老上井覚兼は大きな声を張り上げ、けたたましい笑い声を發した。いつもは冷静沈着な覚兼らしからぬ大声に、そこにいた宗芳や島津の緒將たちはことのほか驚かされた。それにつられて広間中に大きな笑い声が起こつた。

「この勢いで堅志田はじめ高森までを攻めたら如何でございましょうや。今なら若い者も血氣盛んにございます。駿河殿には申し訳ござらぬが、ここが格好の勝鬨か」と

新納忠元はこの際くじに頼らず勢いにまかせようつとそう進言した。

ところが、堅志田と高森を除く六つの城主たちは、その日の夕方には城を明け渡し降伏した。ほぼすべてが宗連の息がかつた面々であつたが、先君の遺言からすれば当然の事だつた。ただ島津が何度か攻めて落とせなかつた堅志田城はもとより、相良が主君の仇とした高森攻めがこれからの課題であつた。

(つづく)

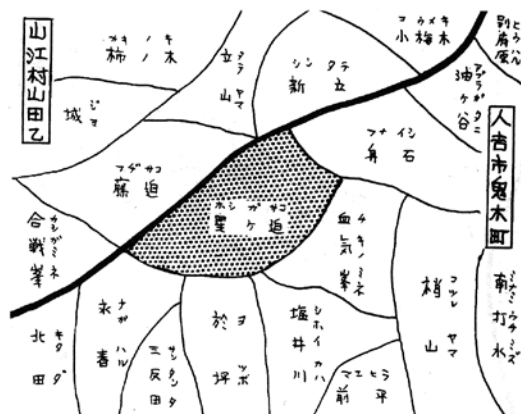
【やまぐち・けいじ／人吉市】

字図で見る球磨の地名 ③7 上村重次

星ヶ迫 (ホシガサコ)

— 人吉市鬼木町 —

人吉市鬼木町字星ヶ迫は山江村山田乙との境界に位置する小字である。



る。第35回(47号)でとりあげた字梢山(コツレヤマ)の西側に当たる。球磨地区の星地名(字名)は七件ある。星ヶ迫の他は次の通り。

▽深田村字星ノ尾(ホシノヲ)▽上村字星崎(ホシザキ)▽深田村字星原(ホシハラ)▽多良木町多良木字星原(ホシハラ)▽岡原村岡本字星原(ホシハラ)▽錦町木上字星原(ホシハラ)

また熊本県内市町村字名の星地名郡別分布は玉名4、鹿本3、菊池4、阿蘇7、熊飽0、上益城5、下益城2、宇土0、八代2、芦北3、球磨7、天草5となっており、全県的に点状する地名であることがわかる。

天草地区には唐千田(トウボシダ)

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

という字名が六件、十星田(トウボシタ)一件、唐星一件があり、肥後では赤米をトボシと呼ぶことから「トボシ田は赤米を作る水田」という説もあるが作物名にちなむ地名というのは説得力がない。五木村には飯干(イボシ)という字名があるが、干地名と星地名が同系であるか否かは別の問題であろうから、本項では星地名に限って考えたい。

『大言海』によると、星をホシというのは火白(ホシロ)の意で、暗夜の空に目立つことからきた語らしい。

『萬葉集』巻二・161に
きたやまに たなびくもの あおぐもの
向南山 陳雲之 青雲之

ほしさかりゆく つきもさかりて
畢離去 月牟離而

と詠まれていて、漢字の星にホシという和語が当てられていたことがわかる。しかし、地名に用字されている星はスターのことではなく、目立つもの、目じるしの意であって、土地のシルシとは即ち標、勝示(ほうじ、しるし)のことと解される。相撲の星取表、白星・黒星の「星」はシルシのことであり、眼球の白点もホシと言い、田植綱につけられた株間しるしもホシと呼ばれる。土地境界の勝示と、シルシの星は音も意味も共通することから、中世用語の勝示地名がすたれるにつれて星地名が登場したと思われる。

人吉市鬼木町字星ヶ迫は山江村山田乙字藤迫(フヂサコ)と向かい合う。迫は両方に共通しており、藤迫

の「藤」は端(ふち)のことである。だから星ヶ迫はムラ境のシルシのある迫(勝示迫)の意であり、藤迫はムラの端つこの迫の表現であって、ともに境界のこととわかる。

星ノ尾、星崎は勝示の先のことであり、星原は勝示のある所(原)と解すれば球磨地区の星地名は矛盾なく説明できよう。

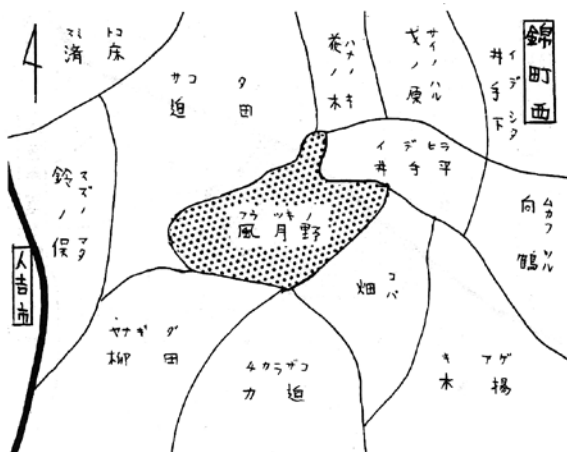
風月野 (フウツキノ)

— 錦町西 —

錦町西字風月野は人吉市上田代町との境界近くにある小字である。文字を見れば風と月、清風と名月、まことに風流・風雅で詩歌、文墨の里を雅称した地名のように思われる。フウツキノとよばれていた地名に、風月野という漢字を宛てた人はその

ように解釈、或いは願望したのであろう。しかし、雅趣と地名の真意は別である。

熊本県内市町村字名で風月と書く地名を探すと天草郡苓北町坂瀬川字風月(フウゲツ)がある。五和町通詞島対岸の有明海沿いで五和町との



境界に近い。フウツキとフウゲツは音が違うものの用字が同じであり、同じ事柄の表現であろう。

荅北町都呂々字フウツキは仮名書きではあるが、風月地名に分類できよう。ここは天草町の境にある。玉名郡菊水町米渡尾字鬼燈はホフツキの訓であるが、フウとホウは音が通い合う点から、同系の地名と考えられる。

お盆花に供えられるホホツキは訛つてフウツキとも呼ばれる。漢字は酸漿で、語源は頬突（ホホツキ）の意とされる。古くはホホツキを口中でふくらませて鳴らす遊びがあったのだろう。鬼燈にホフツキの訓があるのはホホツキヂョウチン（酸漿鬼燈）の略（『大言海』）。字鬼燈は大字江田とのムラ境にあり、西隣りは字畔田（クロタ）でアゼクロのことだから、

一帯は境地として重視されていたのかもしれない。

ホウツキ地名の分布を知るため『日本地名索引』を見ると、滋賀県に保月（ホウズキ）が、秋田県に鬼灯山（ホウズキザン）がある。また奈良県の字名を集成した『大和地名大辞典』には仮名書きのホウズキ地名が八件出ている。県外のホウズキ地名については字図で確かめていないが、県内のホウツキ、フウツキ地名はいずれもムラ境、または境近くに位置している。

こうしたことから、ホウツキ地名のホウ（フウ）は境界線の傍（ほう、札）のことと推察される。が、ツキにひっかかる。いろいろ調べているうちに、ツキは附属（ふぞく）のことと気が付いた。現代では人事用語としては総務部付などと使われるが、地名用

語としては山付（やまつき↓山寄り地）とか海付（うみつき↓海岸地帯）などの「付」がある。玉名郡玉東町木葉字高月（タカツキ）、八代郡竜北町高塚字高附（タカツキ）は高台寄りの意であろう。この月・附がホウツキの「ツキ」である。

このように突き詰めてみると、ホウツキは勝示寄りの意であることがわかる。風月野は境地寄りの野の表現として理解され、風流気分は現実の風に吹き戻された。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

愚感随想①―「穀潰し」から「刻潰し」

富永和信

昔の落語や下世話の会話の中に「穀潰し」という言葉が出てくる。そういえば小生のおふくろも「勉強せー、勉強せー。勉強せんで怠け坊主の穀潰しになっちゃいかんよ」と説教していた。

穀潰しとは文字通り、働きのない怠け者が飯だけ一人前に平らげる甲斐性なしに使う蔑称であろう。しかしこの言葉は身近な者に使う場合が多く、その場合はなんとなく温かみを感じるのである。

意味は違うが、似た言葉に「親の脛（すね）かじり」というのがある。こち

らは子供が親に生活費や学費の面倒を見てもらっていることを言う。

私も自慢出来る話ではないが少年期、長じて学生生活を終えるまで親の脛をかじり続けてきた。その頃は、若気の至りで親の苦勞を実感として感じることはあまり無かったのではないかと、歳増すごとに後悔している。

今にして思えば多くの兄弟を育て上げた親の苦勞は並大抵ではなかっただろうし、親父の脛など骨皮になつていたのではないかと思う。人並みに歳月過ぎて親の恩を痛感し、

本気で親孝行をしようとした時には既に両親ともに彼岸浄土に旅立っている。

母親に諭された当時はあまり真剣ではないが、それなりに頑張つて、その期待に応えようとする意欲があつた。それは多感な青年の漠然とした素朴な心の一面であり、誰もが経験する青年の証であつたろう。

そのある種の希望も、今や儚い夢となつて久しい。年々歳々、時移ろいて「穀潰し」になっちゃいかんよと言われた頃の若僧も傘寿をとづくに過ぎて昔の面影は無く、油断すると無為徒食の老人と言われかねないのではないかと思う。

私には従前から二つの相矛盾する願望があつた。それは世俗の雑事を脱して、霞（かすみ）を友とするような仙人

の境地に少しでも近づけないかという夢のような幻想願望。もう一つは、ほどほどの健康長寿で、残り少ない人生を無駄にしてはいけない。最後に後悔することのないよう、自分自身のため、あるいは他者のため何か少しでも役立つことをしておくべきではないかなどと。

このような愚かなことを考えたりしたが、よくよく再考するに及んで、そんな大層なことが出来る筈が無いということが分かった。

前者については、私の現在の有様から見ても、世俗から抜け出るどころか老いぼれながら俗世人の残照が消え切つてないからである。

後者については本題から脱線するが少し理屈をこねさせてもらいたい。

人の一生を座標軸に当てはめてみると、その寿命すなわち時（刻）を縦軸、いろいろな人生上の雑多なことを横軸として見る事が出来る。縦軸の「時」は物理的には不変や定量性のものである。同時に一定不変であるが、その単位当たりの価値は定性的で、人によって千差万別である。

つまり各個人に与えられた「時」をどれだけ有為に昇華し得るか、あるいは無為に消化したかは人生のトータルで見るとその結果は明らかである。「後悔先に立たず」という諺はこういう時のためにあるが、気がついた時にはもう遅い。

霊長人間を創りたもうた神々は、定量の「時」なるものは万人に配したが、人の一生を左右する定性的な

もの、すなわち健康・知能・気質・貧富などは生まれる時に幸運不運の先天的不平等を創りたもうたのではないだろうか。

しかしよく考えてみると創造主は「時」という不変平等の宝を人類に与えて「人々よ各人精進努力せよ」とのご宣託されたのではあるまいか。

人々は幸せを求めて奮闘努力をするが、その幸せはその人の価値観によるもので、多様である。

私は怠け者ではなかったが、仕事一途の人間でもなかった。しかし一応、仕事と公私にわたる交際などにかまけて、家庭のことは殆ど家内に任せて、長い間苦勞をかけた。

今改めて思うに、子供二人（娘）を成長させ、我が家が平穩無事に

過ごしてこれたこと、更に生来不摂

生な小生が米寿近くになってヨタヨタながらゴルフプレーが出来るほどの小康を保っていることも全て彼女の飼育管理の努力のお陰である。

私も人並みに数年前から、人生の終活についてあれこれと身の程知らずのことを考えていたが、自分の根っこを支えている大事なことを忘れては、人生の総括などあったものではなくろうと、深く反省するに

至った。

そこで私は、これからの残りの「時」を、家内を中心とした時間の「刻」を潰すことを実践することにした。幸いにも彼女は、生涯に及ぶ趣味（長州伝統手漉き和紙の創作人形作家）を持ち、そのための小さな工房を有して小範囲ながら県内外での活動をしているので、その雑用や運転業務のサポートを決め、実施している。

つまり私の「終活の時」は自分の趣味を続けながら、残りはずべて家内への恩返しのための「刻潰し」に専念することになったのである。

私は今年の元旦、例年の通り市内の四社二寺の新年初詣をした。いつものように身内一同の安全・健康を神妙に祈願した。そのあと

不謹慎にも「家内がどうか元気でありますように、そして私は家内が元気なうちに周りに迷惑をかけないように」ブリーフ（ピン・ピン・ポツクリ）で旅立ちが出来ますように」と、身勝手なお願いをした。これはどう考えても閻魔様から「鞭打ちの喝！」を言われること必定で令和二年を頭の初反省となった。

いずれにしても不相応な人生の仕上げなどを考えるよりも、残り少ない大切な「刻」をささやかでも夫婦共有できれば、これに勝る締めくくりはないだろう。

なぜなら、小さな人間の人生なんて悠久の宇宙の時（刻）の中にあつて一瞬の風のまばたきのようなものであるから。

【とみなが・かずのぶ／山口市】



方言を味わう④

球磨弁の接頭・接尾語④

——しやぐのきツ——

前田一洋



「四月とぞ言うて花見もでけんどこいか、学校坊主どもまで家んな中でウロンウロンしてスマホばかりせせくつとる。そいもこいも、クソころなゲドがおかげじやつでわや。ゆうと腹んキツテキツキツ沸く。一ぴやヒン飲うで戻るかて思て駅へんよばされーてみたいどん、飲み屋はどつこもせかつたなり」

「さいばたい、おどんぎやにもあぎゃんとの流行つてどもハチ来ればチャントコしみやじやつで。子どめも、どしこ手洗う時にや石鹸つけてゆう

さて今の新婦さん、どれだけの人がそうなるか。逆に姑イジめの鬼嫁だつたりして。

孟宗筍とこさん筍

「だ（誰）が一番しみやまでヒット出らじにおりきつか」という我慢比べをしていた筍たち。その中で図体が一番ナマ大かくせに、モウそろそろと最初に地上にツキ出てハチ来たのが孟宗竹。しみや（最後）まで歯をギリギリ食いしぱりながらも、素直に「降参」と言つて、一斉に出現したのは誰。あの釣り竿などにする、小さいこさん（ほていちく）筍であつた。人も物も見かけにやよらん。

まあそう言いながらも筍にもそれぞれに持味があつて食卓を賑わしてくる。地面を深く掘つクツ返し

洗るえちゅうとなるいどん、イチチョだり聞く耳どま持たん。見てくだい、マスクもしちやおるいどん、あごタンまでズツ下げてばい。おまいからもやかましゅう言うてくんないよ、おなご親がどしこ言うてかせたつちや、スッペンコッペン口ヘーじよばサデキツかやすばかり。びんたが痛かばい」

進学や祝儀

桜の開花に合わせるかのように、入園入学進学就職などと人間の花

て採つた孟宗など刺身でも焼酎の肴に。グラグラ滾るお湯で湯掻き、それをコチコチに干したかつ（唐）竹や淡竹（はちく）など煮染めの材料として欠かせない。

「こないだ久しかぶり市房に登つたれば、篠（すす）竹までチャラーリウチ食うてしもとつたがな、鹿ゲドがたい。あの筍は皮のまま焚火で炙つて食えば、どぎや美味かとな」

ババしゃんの時寿司

ふと庭先に目をナンぎやると、いつのはじや（間に）か路が大きな葉を広げ、茗荷にも白い花芽が。こうした春の使者たち、つまり「時ものもん」を使つて、ババしゃんが作つてくれていたのを「時寿司」と言つていた。店屋から買つてくるのは、ばら寿司の上にバラバラつとばらま

も咲き揃う。たとえ定員割れに近いからというので、「受験勉強はご無用ミソもクソもいらつしやい」、というわけにもいくまい。学校にはそれなりのプライドもあるはずだから。やはりかたちだけでも「難関」が設けられているはずである。

またこの季節は祝儀（結婚式）のシーズンでもあつた。花にキヤ浮かれてというより、田植えをはじめとした農繁期に備えるためであつたのだ。嫁さんが今では少し気に食わねばすぐチイ戻つてしまうようだが、「三界に家なし」と云われていた頃には、そうもいかなかった。姑かかさんからはせぎ（いじめ）られ、鬼千匹（嫁いかずごけ）共から嫌味たらたらキツかやされ、それに耐え抜きようやく一人前のアネ（嫁）さんになるのであつた。

く桃色をしたおぼろだけ。

「この時寿司にや山椒の芽まで入れてあつたもんじやつで、美味うして美味うして顎タンのヒツぱずりゆててしたばい。とうとう三びやもウチ食てしもた。また吸いもんも美味うして、こつも三びやヒン飲うでしもた」

「だんだん、おまい共がすぎやーゆるくう（喜ん）でくるつとが、なんよま嬉しか。重箱にもツンツケ（押さえ付け）て詰めてえーたで、戻つてから一そ（皆）に存分たもらせ（食べさせ）てくれる。トトしゃんの焼酎ん肴にや、びち（別）な重箱にとい（鶏肉）の煮シメあげたとよばズビヤ入れてあつて」

【まえだ・かずひろ／人吉市】

問1 球磨川本流が流れている自治体名を書け（例：人吉市）

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問2 以下の文章は正しいか、正しいときは○を、誤っているときは×をつけよ

（例：スペイン風邪の発生地はスペインである。×）

- ① 沢田一精知事時代に、荒瀬ダムの撤去が決定した。
- ② 警察庁長官は法務大臣の指揮命令にしたがう。
- ③ 地方議員は地方公務員共済の組合員である。
- ④ アメリカの大統領で3期務めた人物はいない。
- ⑤ コロナウイルスの「コロナ」はラテン語の肺炎にあたる言葉（「CORONA」）に由来する。
- ⑥ 麒麟は、中国にかって実在した動物である。
- ⑦ 熊本県には副知事はいない。
- ⑧ 坂田道雄八代市長は、市長になる前は、旧制第五高等学校（現在の熊本大学）の教授であった。
- ⑨ 安倍首相が東京オリンピックの延期を決定した。
- ⑩ 検察庁長官の報酬は国務大臣の報酬と同額である。

問3 坂本町の製紙工場の創設にかかわった人物を5名あげよ（例：安場保和）

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問4 以下のナンプレ問題を解け（空白マスに適切な数字をいれよ）

	8		2		5		3	
5		3		4		6		9
	4		9		3		2	
8								3
		7	8		4	5		
	5	6					9	2
5								7
2		4	7	1	6	3		8
1					2			6

問5 アメリカの大統領の名前を10人あげよ（例：ジョージ・ワシントン）

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()
- ⑥ ()
- ⑦ ()
- ⑧ ()
- ⑨ ()
- ⑩ ()

※答え合わせは次号でおこないます
前号の答え合わせは77頁で

東風(こち)

「春一天文」

歌代美遥

【季語の説明】

春に吹く東風。三春の季語。暖かい春の風が冬の間張りつめていた氷を解かし始める頃。いよいよ春の暖かい足音が聞こえてくる。移動性高気圧の影響で、東からの風ばかりではない。「東風」は文学的歴史的表現だという説もある。陰陽五行説では春は東風として、吹いてくる方角で、その季節らしさを表している。

漱石の子規への書簡桜東風

●【永田満徳評】

「桜東風」は風の無情さと花の豪奢さと潔さの本意を持つ季語である。掲句の「書簡」は子規の病状に対する労いがあった。「桜東風」が遠く隔てていても刎頸の交わりに近い友情を寿いでいるところがよい。

卒業(そつぎょう《そつげふ》)

「春一生活」

【季語の説明】

「卒業」は、小学校から大学までの、学校の規定の全課程を修了すること。日本の卒業式は年度末の3月初旬から下旬にかけて行われる。卒業には一つのことを成しとげた安堵感や新しい世界への希望に満ちた心とともに、学舎を去るさびしさや人との別れなどが入り混じり、感慨もさまざまである。

杉山満

● 郵送で届く証書や卒業式

●【永田満徳評】

誰でも経験していることなので、どの場面を切り取るかが問題になる。掲句は卒業を病室で迎えた子に卒業証書が届けられた場面。闘病は続くけれども、一つの区切りがついた安堵感が出ていて、心惹かれる。

鳥帰る(とりかえる《とりかへる》)

「春一動物」

【季語の説明】

日本で見られる野鳥の多くは、季節によって移動する。日本国内の移動ではなく、国境を超えて移動するものを「渡り鳥」と呼ぶ。春になって、北に帰る渡り鳥を「帰る」として、季語にもなっている。日本の冬鳥は夏の暑い時期はロシアのシベリアなどで過ごし、晩秋～冬の時期になると日本にやってきて越冬をする。

中野千秋

● につぼんの芯に山あり鳥帰る

●【永田満徳評】

「鳥帰る」は取り合わせの方がダイナミックな句になる。掲句は平仮名の「につぼん」で日本を示し、国土の特徴を「芯に山あり」という措辞で捉え、天上の「鳥帰る」との取合せで雄大な世界を詠んでいる。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】



—新型コロナウイルス、世界で爆発的感染が拡大—
東京オリンピックも延期へ。マスクも消毒液も品切れ。
医療も経済もどん底の危機。

うろたえ…
げっかん・ぎひょう

外来語から学ぶ英単語 (49) …… 藤原 宏

キャップ・カッパ・ケープ・シャッポ・チャペル・チャプター・チーフ・シェフ
cap capa cape chapeau chapel chapter chief chef

すべてラテン語「caput (カプトウ)、頭・先端」を語源とする同根語です。

「cap (キャップ)、ふちのない帽子」は「きのこのかさ・びんのふた」など形や機能が帽子に似ているものにも使います。

江戸初期に借用されたポルトガル語「capa (カッパ)、頭にかぶせるもの・合羽・マント」は、英語の「cape (ケープ)、肩をおおうそでなしの外套」に当たります。

フランス語系の「chapeau (シャボ)、縁のある帽子」、「chapel (チャペル)、小礼拝堂」、「chapter (チャプター)、章・支部・重要な一区切り」は、それぞれラテン語「cappa (カッパ)、頭巾」の指小形として変化したものです。chapel は元は聖衣としての cape の安置所の意でした。chapter は「小さな頭」が原義で、そこから区分ごとの「出だし」すなわち「章」の意となりました。

英語の chief (チーフ) とフランス語の chef (シェフ) は同義で「組織の長・かしら・リーダー」のことですが、chef は特にコック長の意で借用されました。

(416)

前号【くまがわ学習塾③の答え】

問1 次の小説に登場する江戸時代の藩は実在するか。正しいときには○を、誤っているときには×をつけよ。(例:山口啓二「小説 相良清兵衛」(人吉藩))

○)

- ① 千野隆司『おれは一万石』(双葉文庫)(高岡藩) ○
- ② 畠中恵『わが殿 上下』(文芸春秋)(大野藩) ○
- ③ 土橋章宏『!超高速参勤交代』(講談社)(湯長谷藩) ○
- ④ 浅田次郎『大名倒産 上下』(文芸春秋)(壬生山藩) ×
- ⑤ 藤沢周平『たそがれ清兵衛』(新潮社)(海坂藩) ×

問2 以下の文章は正しいか、正しいときは○を、誤っているときは×をつけよ

(例:新型コロナウイルス問題で、トイレトペーパーの品薄状態が発生した。○)

- ① フランスの経済学者・トマ・ピケティの定式「 $r > g$ 」は、経済成長より資産収入が多いとき、収入の「格差」が発生する旨の定式である。○
- ② バックウォーターは、一般に、本流の流れが壁になって支流の流れを逆流させる現象のことである。○
- ③ 退職金は、裁判所の判例によれば、給与の後払いである。×
- ④ 球磨村の村長選挙は、前回に続いて今回も、無投票と予想されている。×
- ⑤ 「道の駅」を災害時の避難場所にする例が増えている。○
- ⑥ 新型コロナウイルスは南極を除くすべての大陸で感染が発生した。○
- ⑦ 裁判所によれば、嫡出子否認の訴えは夫(元夫)だけができる。○
- ⑧ 国会法に基づき、大臣は育児休暇を取得する権利を有する。×
- ⑨ アラブ首長国連邦の首都はドバイである。×
- ⑩ IR は「インターナショナル・リゾート」の略語である。×

問3 球磨川流域の人物で熊本県近代文化功労者として熊本県教育委員会より顕彰された人の名前を10名あげよ(例:渋谷敦)

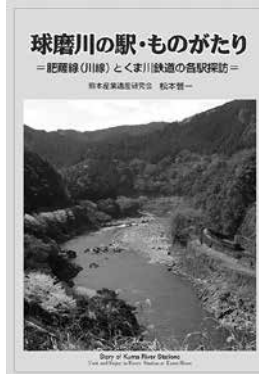
- ① (高木 惣吉)
- ② (遠山 参良)
- ③ (伊豆 富人)
- ④ (谷口巳三郎)
- ⑤ (坂田 道男)
- ⑥ (前原勘次郎)
- ⑦ (高田 素次)
- ⑧ (宮崎 精一)
- ⑨ (川辺 ミチ)
- ⑩ (川上 哲治)

問4 以下のナンプレ問題を解け(空白マスに適切な数字をいれよ)

6	3	5	1	4	7	8	9	2
2	4	1	9	8	5	6	3	7
7	9	8	3	6	2	5	4	1
1	5	9	7	2	3	4	8	6
8	6	2	5	1	4	9	7	3
4	7	3	6	9	8	1	2	5
5	8	6	2	7	9	3	1	4
3	2	4	8	5	1	7	6	9
9	1	7	4	3	6	2	5	8

問5 国の省庁名を書け(例:外務省)

- ① (法務省)
- ② (農林水産省)
- ③ (総務省)
- ④ (防衛省)
- ⑤ (厚生労働省)
- ⑥ (財務省)
- ⑦ (経済産業省)
- ⑧ (国土交通省)
- ⑨ (環境省)
- ⑩ (文部科学省)



球磨川の駅・ものがたり
— 肥後線(川原)とくま川鉄道の各駅探訪 —
熊本産業遺産研究会 松本晋一

31連本 駅載誌 がさ に 二冊に

■A5判 212頁オールカラー
■定価 1,650円(税込)

ご購入は人吉・球磨の書店、TSUTAYA 八代松江店、博多駅売店、くま川鉄道「くまたび」、道の駅さかもと、発行元の人吉中央出版社にどうぞ。

発行:人吉中央出版社 0966-23-3759

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

改竄の罪を背負いてひとり逝く民の官條真相遺し
自決せし夫の無念晴らさんと決然と起つ深き魂

※自殺した財務省職員赤木俊夫さんとその妻

柳原 三男

椿散り赤き絨毯となりけり踏まず歩きし山里の道
春待ちて芽吹きし雑草むしりとりる大地に張りし深き根つこよ

坂本 ケイ

日一日驚上手くなりゆけりわれも負けじといざりハビリへ
ひ孫立つわれは立てなくなりゆけりされど生きゆく夫とともに

上田 廸子

一律に休校したるその先を読めぬ首相に憐れひとしお
コロナ禍を尻目に首相はトモダチと美食三昧重ねいとぞ

上田 精一

大事なのは知識の量でなく、その質である。もの
凄くいろんなことを知っているくせに、一番必要なこ
とは知らない人がいるものである。

今月の一言

『文読む月日』

(レフ・トルストイ編著
北御門二郎訳)

より

表紙写真「春はSL人吉に乗って」

— 球磨村渡駅付近で —

菜の花、桜をバックに走るSL人吉の勇姿を狙って何
度か足を運んだ。曇天では花が活かせず車体の輪郭も
出ないので、晴天を待った。流
域の唯一の明るい話題だと思って
チャレンジした結果だが、菜の
花が少なくなっていたのが残念。

撮影／松本学（編集部）

すべての人を自分の親だと思って…



- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護
- 通所介護事業所
- 居宅介護支援事業所

社会福祉法人 天雲会

龍生園

〒868-0086 人吉市下原田町瓜生田1057-9
施設部門 ☎0966-22-6621 FAX 0966-22-6622
在宅部門 ☎0966-22-2141 FAX 0966-22-2183
URL: www.ryuseien.jp
E-mail: tenunkai-daihyou@ryuseien.jp

伊勢戸明著「くま春秋」

発行・人吉中央出版社
発売・風行社

長年にわたり地方紙の記者として政治、文化、教育など、
幅広い分野から情報を発信した著者の珠玉のコラム集。
14年間「週刊ひとよし」の巻頭を飾ったコラム370本を
精選した一冊。



カバー写真：山口隆二
■A5判/上製/400頁
■定価2,100円(税込)
送料200円

●収録コラムにはすべてタイトル付き
●事件や地域のできごととその動きや、
方言説明などをコラム末尾に注記
●巻末に人名索引、コラム掲載号一覧

ふるさととの出来事と人物に出会える一冊

通販申し込みは下記へ

※代金は、同封する郵便振替用紙でお支払い
ください。

伊勢戸明 (いせと あきら) [1932～2010]
朝鮮・京城(現ソウル)生まれ。新聞記者・コラムニスト。
大分新聞社を経て、1958年、熊本県人吉市にて「日
刊人吉新聞」を創刊。38年にわたり連載コラム「雑音」
執筆。同社を退職後、1997年『週刊ひとよし』創刊。
以来14年間、巻頭コラム「くま春秋」を執筆。地方
紙記者の枠にとどまらず、この地方の文化・教育活
動などにも広く、深く、関わった。

お問い合わせ 人吉中央出版社 〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
TEL0966-23-3759・FAX0966-23-3759 info@hitoyoshi.co.jp

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中、緊急事態宣言が発令された。2月のこの欄に「早く収束することを祈るばかりである」と書いてから2ヶ月、誰がこのようなことを予想できたであろうか。今月は医師の立場から、岐部明廣さんと（8頁）、大草知子さんに（11頁）緊急寄稿していただいた。今後の暮らし方の参考になれば幸いである。★身近な訃報が相次いだ昨今だが、今月号では文化活動などに尽力された三原竹二さんを追悼した（33頁）。三原さんは本誌の購読代を振り込みではなく、事務所に持参されていた。「やあ」と入って来られ、雑談を交えながら半年分くらいを支払われていた。奇しくも最後の購読代は、亡くなる今年2月分までをきっちり納められていた。本当に最後まで几帳面な生き方をされたのだと思う。★先月寄稿していただいた澤宮優さんの新刊が出た。無名の人の働きを追い続ける氏の著作（4頁）を、今だからこそ読んでみたい。（ま）

〒868-0015
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23-3759

最近のおもな出来事

- 3月14日（土）
▽SSL人吉運行開始
- 3月20日（金）
▽相良三十三観音めぐり「春の一斉開帳」（郡市35札所、開帳のみ接待は自粛）
- 3月22日（日）
▽熊本県知事選挙 投・開票
- ▽球磨村長選挙 投・開票
- 4月2日（木）
▽ひとよし・くま市民劇場例会「エイコーン 栗原小巻 一人芝居『愛の賛歌』ピアフ」（人吉市カルチャーパレス）
- 4月19日（日）
▽田野高原ワラビ狩り開放（人吉市田野町）
- 4月26日（日）
▽あさぎり町議会議員選挙・投開票
- 4月30日（木）
▽Japan Baseball Jurassic 2020（川上哲治記念球場）

※新型コロナウイルス感染防止のため変更になる場合があります。

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア

（たけだ眼科ビル内）☎0966-23-3097

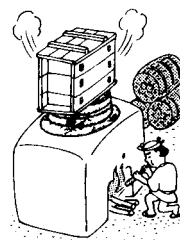
デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ
（居宅介護支援事業所）

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307



◆納豆みそ
（お徳用）
300円（税抜）



御膳醤油
（だし入り万能しょうゆ）
◆玉子かけご飯
◆豆腐
◆お刺身に
300ml 650円（税抜）



◆みそ煎餅
477円（税抜）

人吉散策コース 九州名産 蔵めくら

みそ・しょうゆ蔵

資 釜 田 醸 造 所
会 長 釜 田 元 嘉 頭
社 長 釜 田 嘉 頭
マルカマ

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp